

1

調査の概要



(1) 調査の目的

市の公共施設のこれからのあり方を検討するにあたり、市民の意向や市政に対する意見に関する調査を行い、施策の立案や実施に反映していくことを目的とするものです。

(2) 調査の内容

公共施設の利用状況や見直しに対する考え方などを調査。全 57 項目で、主として選択方式で質問しています。

(3) 調査対象

市内在住の 2,500 人（平成 23 年 11 月 4 日現在の住民基本台帳から満 20 歳以上のかたを無作為に抽出）

(4) 調査方法

郵送法

(5) 調査期間

平成 23 年 12 月 1 日から 12 月 16 日まで

(6) 回収率

調査対象人数	2,500 人
回答者数	1,420 人
回収率	56.8%



2

回答者の構成

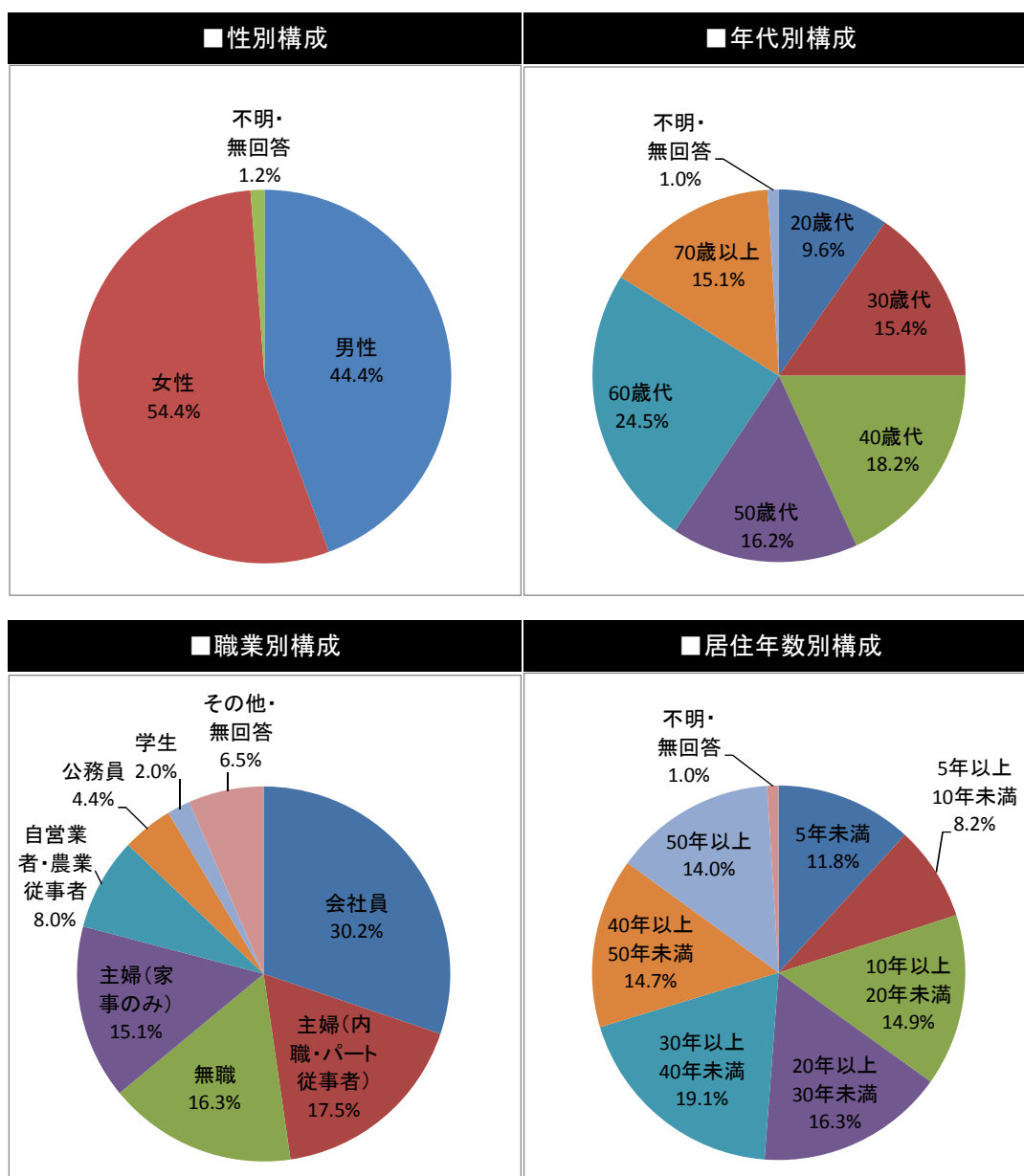


○ 高年齢のかたの回答が4割を占める

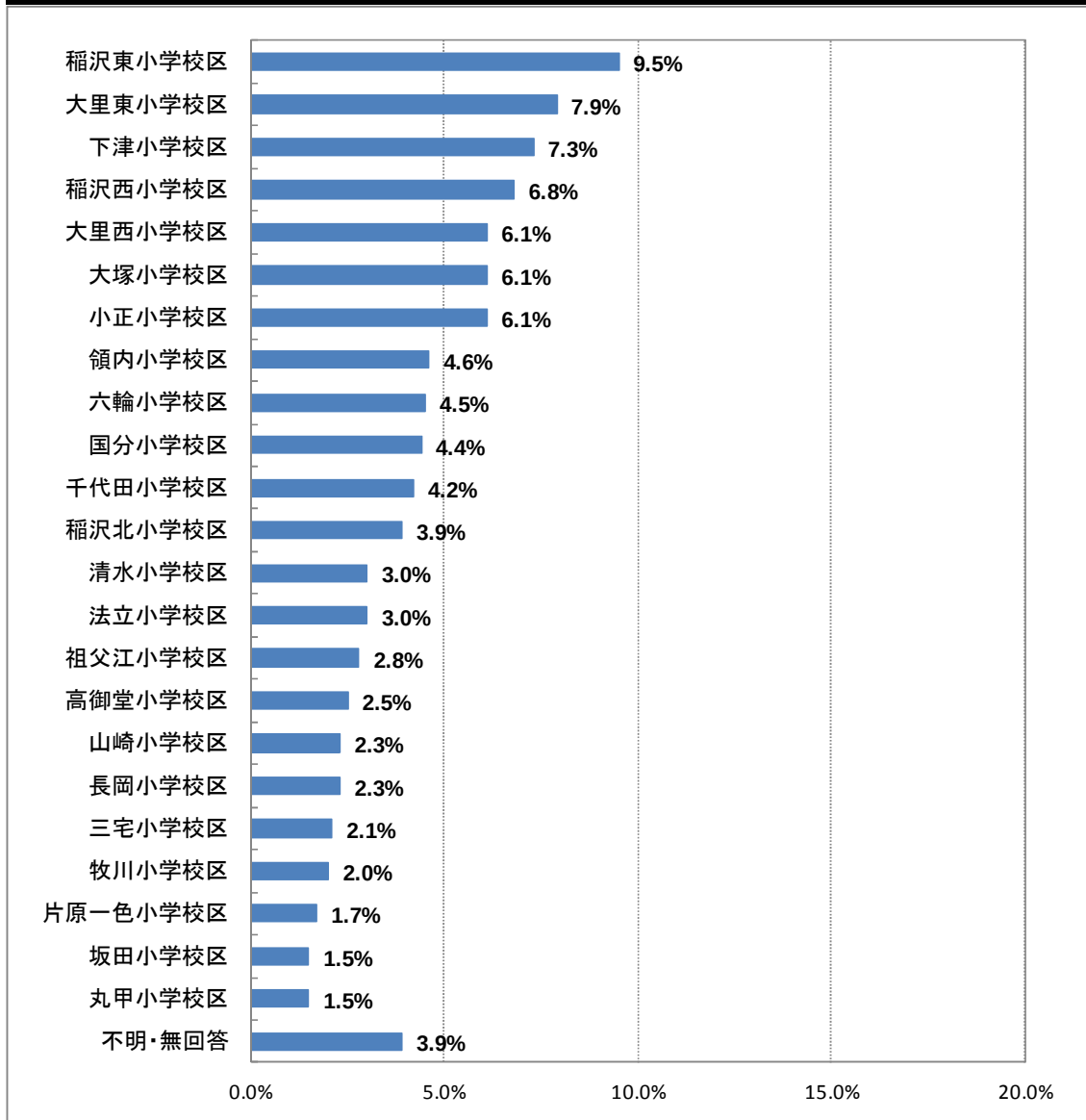
回答者の構成を年代別で見ると、60歳以上が合わせて39.6%を占めており、高年齢のかたの意見が比較的多く反映される結果となっています。

○ 20年以上居住されているかたの回答が6割を超える

回答者の構成を居住年数別で見ると、20年以上が合わせて64.1%を占めており、居住年数の長いのかたの意見が比較的多く反映される結果となっています。



■ 居住地区別構成





(1) 稲沢市のこれからのまちづくり

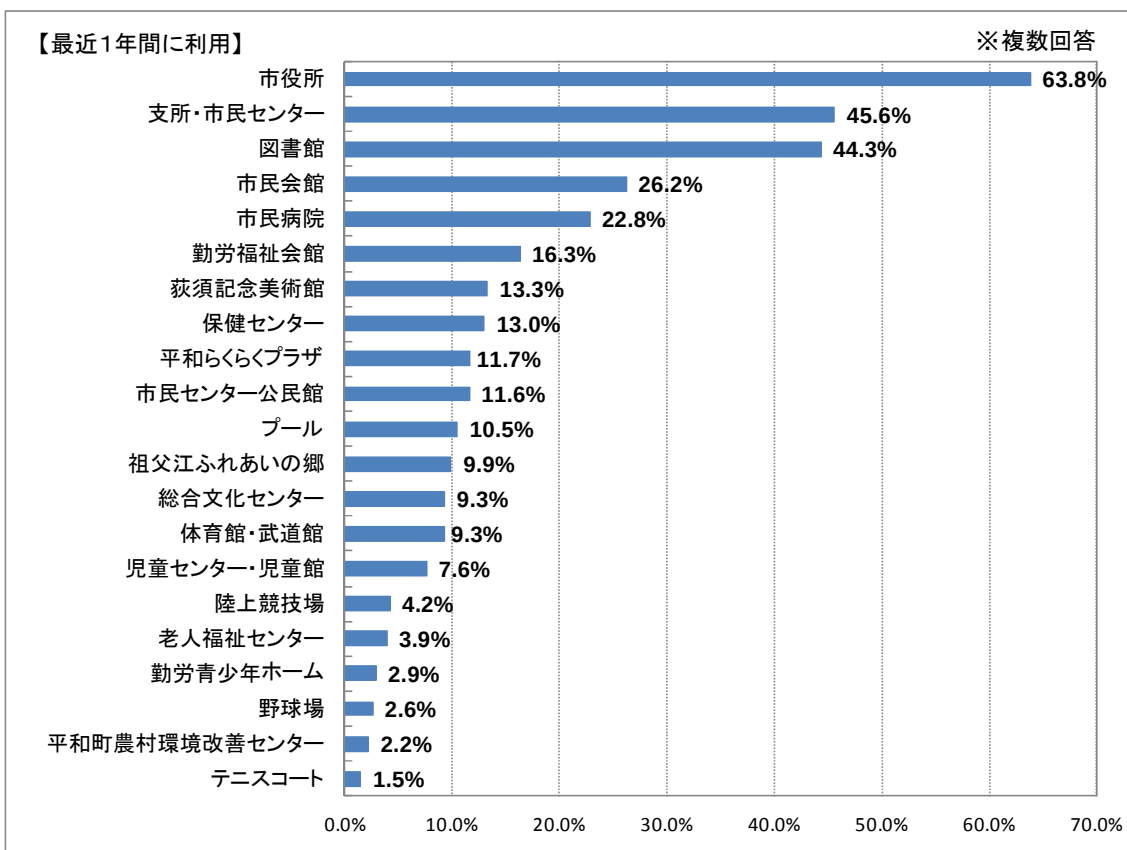
日本は、少子高齢化の進行とともに、人口減少社会を迎えつつあります。稲沢市も例外ではなく、市税をいかに確保し、医療費などの扶助費の増加にどのように対応していくかが、財政上の大きな課題となっています。

また、市が抱える190の公共施設のうち、築後30年以上経過したものが110施設に上り、その多くはこれから建て替え時期を迎えます。

こうした中、市が目指していくべき方向性について、調査しました。

○ 市役所、支所・市民センター、図書館、市民会館、市民病院を多くのかたが利用

「最近1年間に利用された市の公共施設を挙げてください」という設問に対しては、「市役所」と答えた方が63.8%と最も多く、次いで「支所・市民センター」45.6%、「図書館」44.3%、「市民会館」26.2%、「市民病院」22.8%という順になっています。



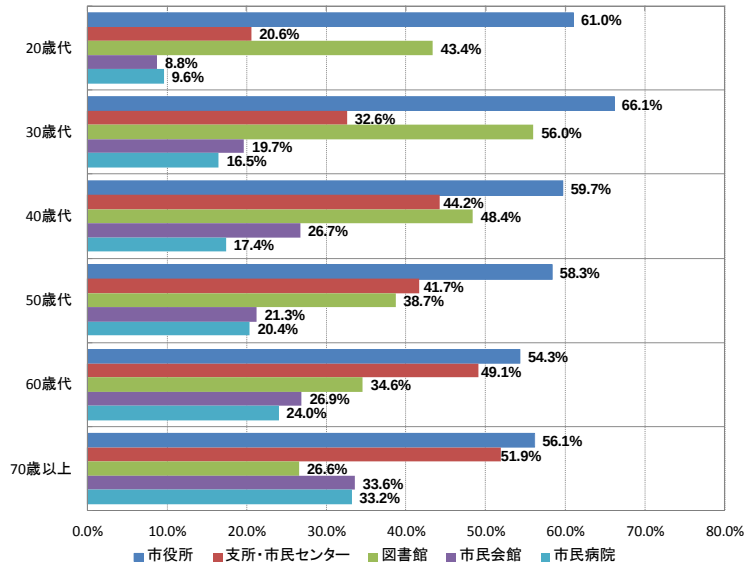
これを年代別で見ると、市役所、図書館は年齢が上がるにつれて利用率が低くなり、支所・市民センター、市民会館、市民病院は年齢が上がるにつれて利用率が高くなる傾向がうかがえます。

また、地区別で見ると、市役所から遠くなるにつれて支所・市民センターの利用率が高くなること、市民会館、市民病院は市東部のかたの利用率が高いことがうかがえます。

■年代別

【最近1年間に利用】

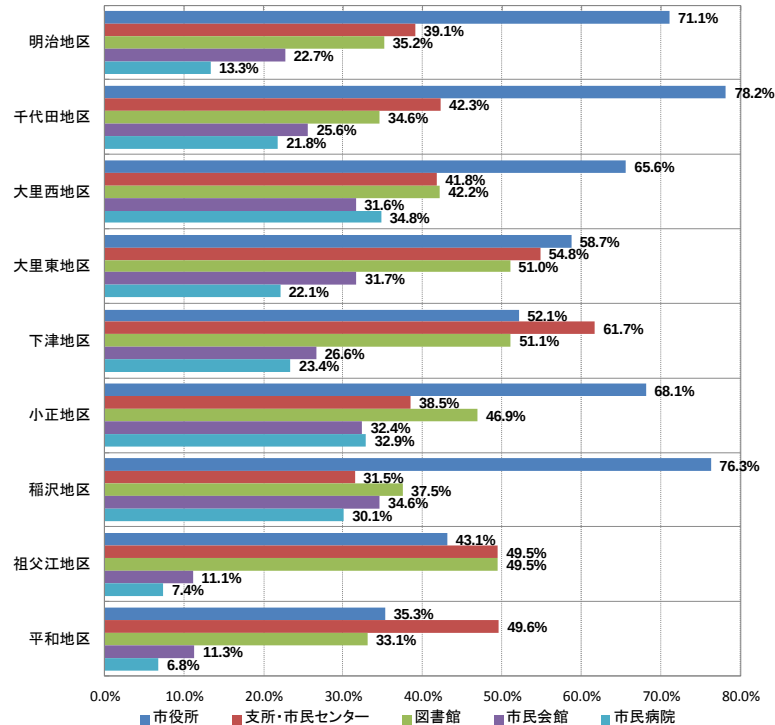
※複数回答



■地区別

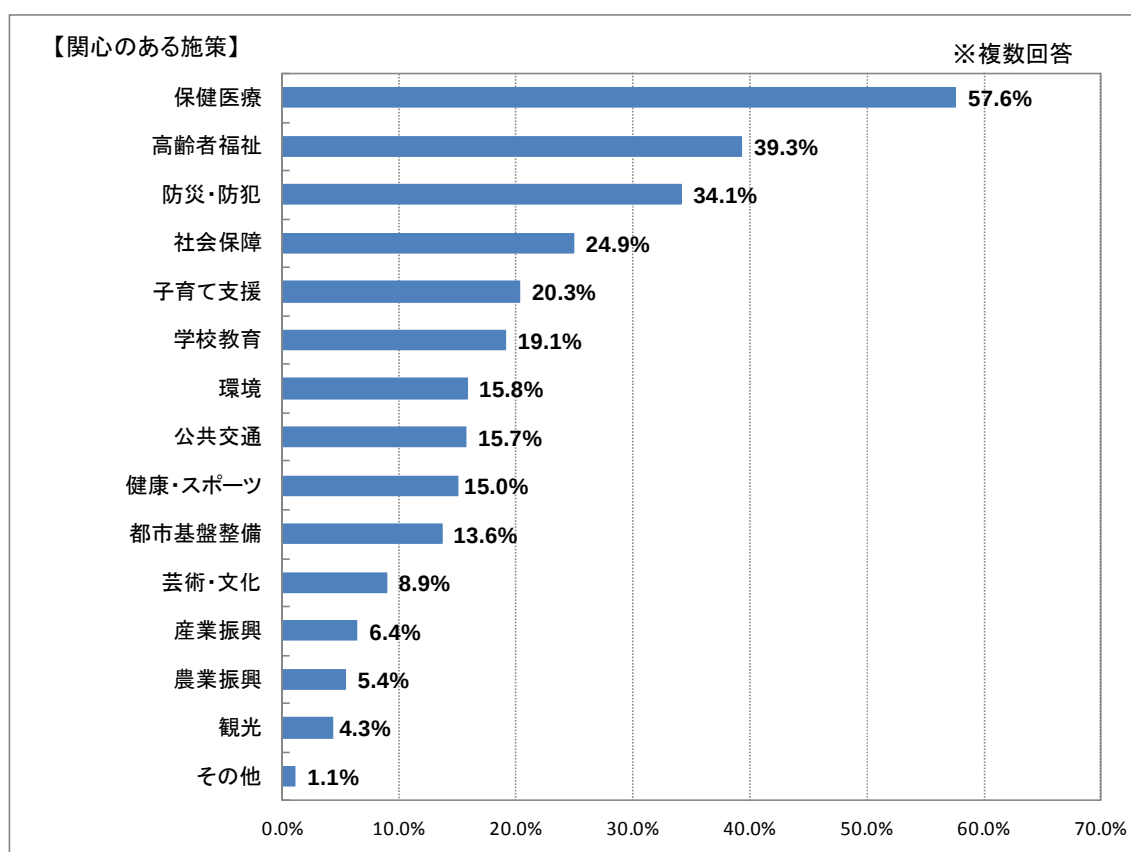
【最近1年間に利用】

※複数回答



○ 保健医療、高齢者福祉、防災・防犯に関心が高い

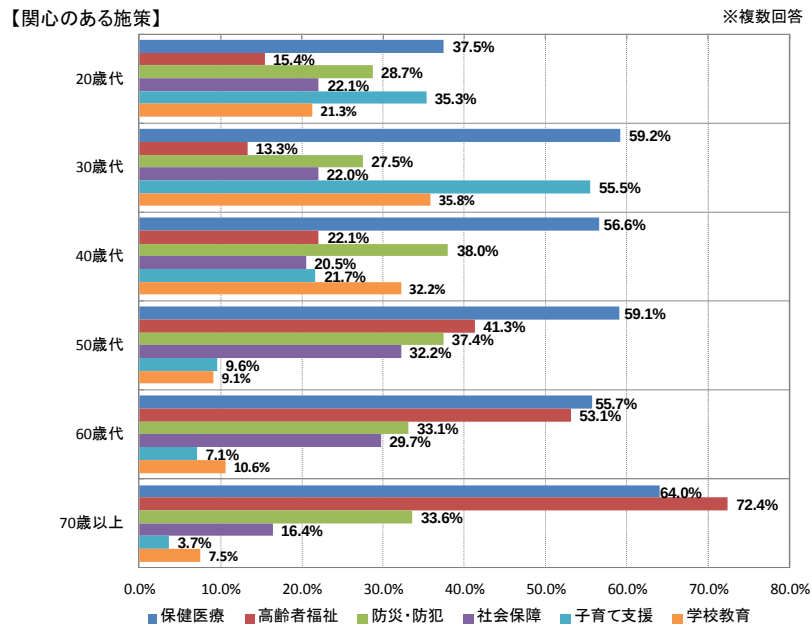
「市の行う施策のうち関心のあるものを三つまで挙げてください」という設問に対しては、「保健医療」と答えたかたが 57.6%と最も多く、次いで「高齢者福祉」39.3%、「防災・防犯」34.1%、「社会保障」24.9%、「子育て支援」20.3%、「学校教育」19.1%という順になりました。



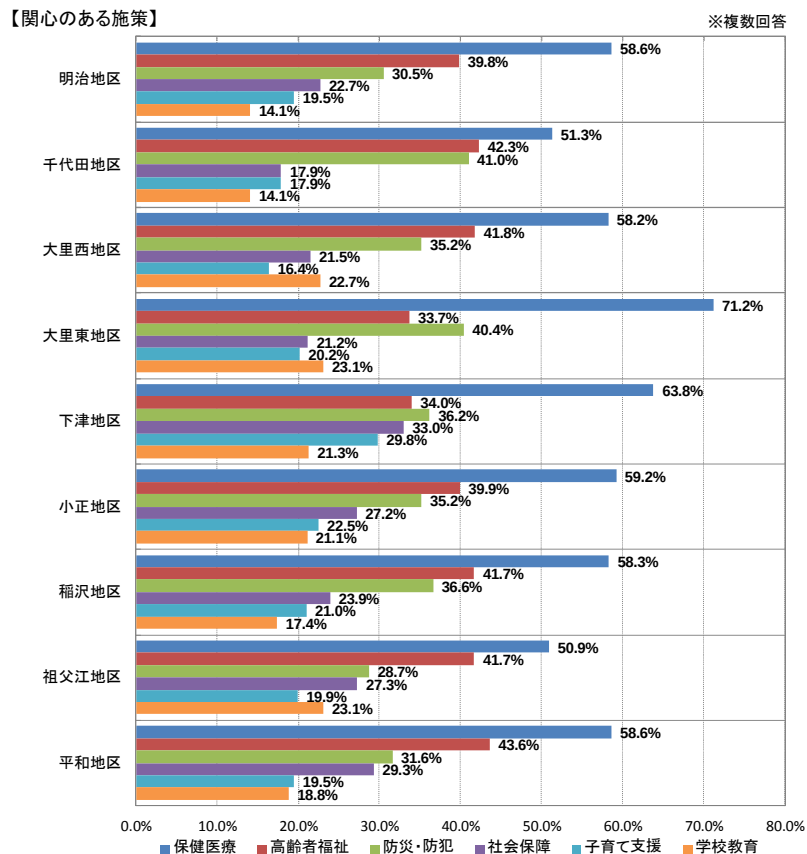
これを年代別で見ると、子育て支援、学校教育は20歳から40歳代、社会保障は50歳から60歳代に関心が高いのに対し、保健医療は30歳以上、防災・防犯は40歳以上から関心が高くなっています。

また、地区別で見ると、区画整理の影響で若い世代が多い大里東地区、下津地区では、子育て支援への関心が比較的高くなる一方で、高齢者福祉への関心が比較的低くなる傾向がうかがえます。

年代別



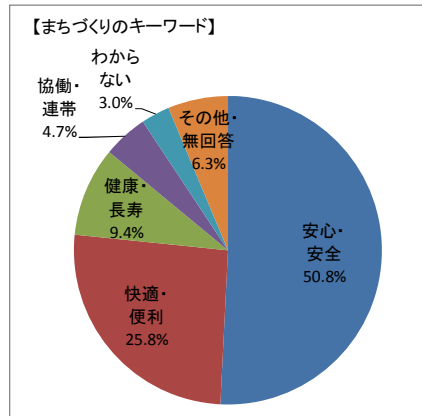
地区別



○ まちづくりのキーワードは「安心・安全」

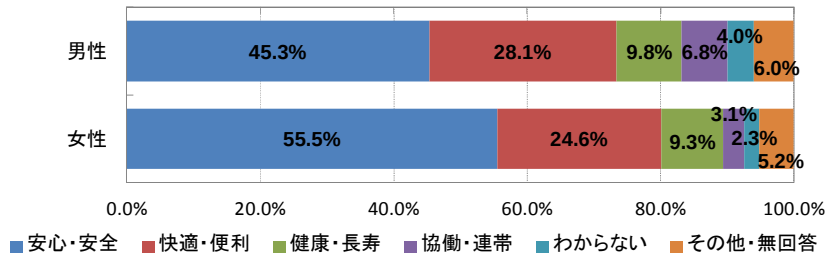
「これからのまちづくりの方向性について、共感できるキーワードを一つ選んでください」という設問に対しては、50.8%のかたが「安心・安全」と答えています。

これを性別で見ると、男性より女性のかたが「安心・安全」を多く選び、年代別では、30歳から50歳代で「安心・安全」が多く共感を集めています。



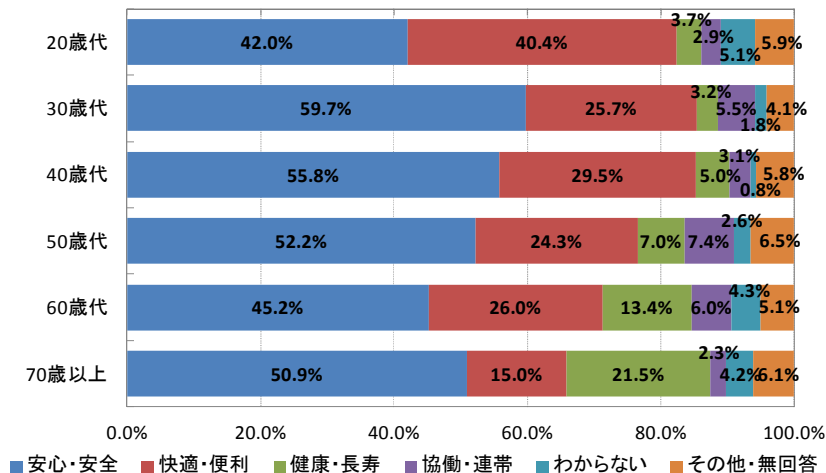
■ 性別

【まちづくりのキーワード】



■ 年代別

【まちづくりのキーワード】



(2) 市の公共施設のあり方

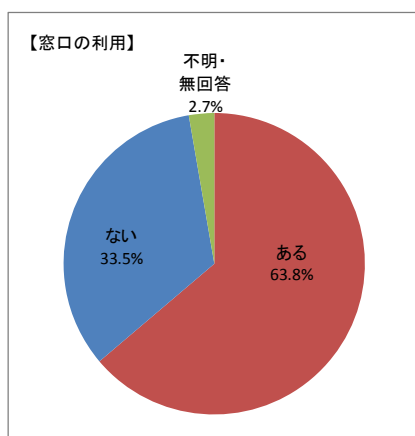
① 支所・市民センター

市では、市役所以外に2か所の支所と7か所の市民センターの窓口で、住民票の発行などのサービスを行っています。こうした窓口のあり方について、調査しました。

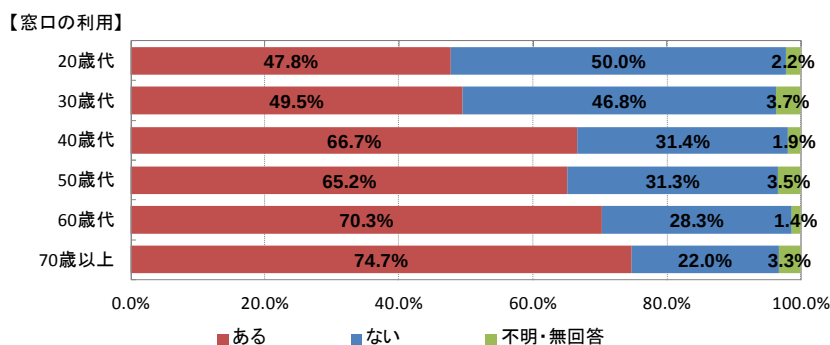
○ 「利用したことがある」が6割以上

「市役所以外の9か所のサービス窓口を今までに利用したことがありますか」という設問に対しては、63.8%のかたが「ある」と答えています。

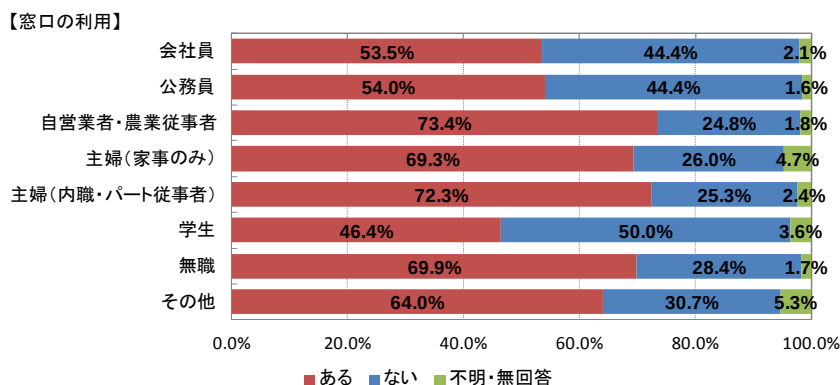
これを年代別で見ると、年齢が上がるにつれて利用率が高くなり、職業別では、自営業、主婦、無職のかたの利用率が高いことが分かります。



■ 年代別



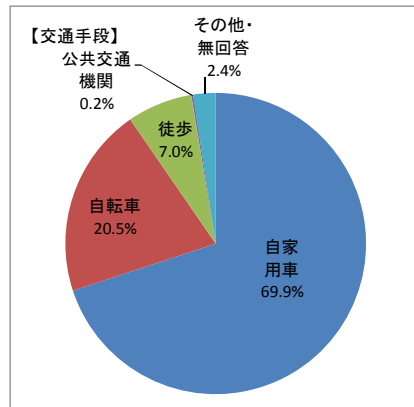
■ 職業別



○ 自家用車の利用が7割

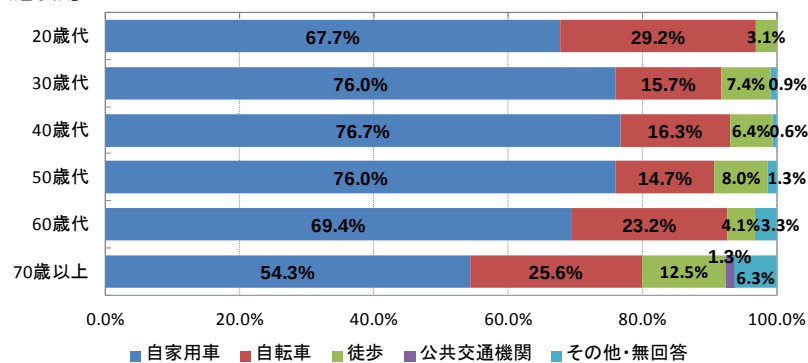
「市役所以外のサービス窓口にどのような交通手段で行きましたか」という設問に対しては、「自家用車」と答えたかたが69.9%と最も多く、次いで「自転車」20.5%、「徒歩」7.0%という順になっています。

これを年代別で見ると20歳代及び60歳以上で、地区別では大里地区、小正地区、稲沢地区で、自転車と徒歩の比率が比較的高い傾向にあることがうかがえます。



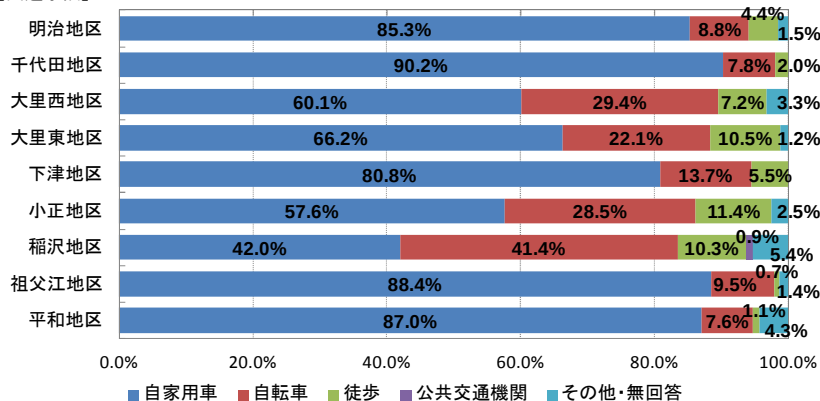
■ 年代別

【交通手段】



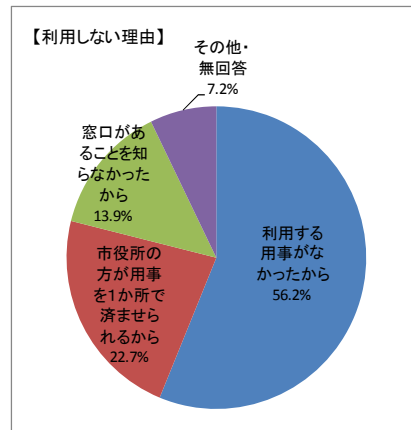
■ 地区別

【交通手段】



○ 「用事がなかったから利用していない」が半数以上

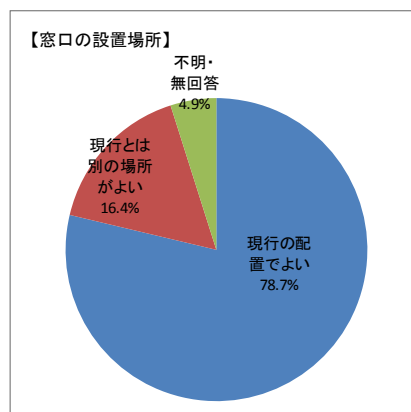
市役所以外のサービス窓口を利用したことがないかたにその理由を尋ねたところ、「利用する用事がなかったから」が 56.2%と最も多く、次いで「市役所の方が用事を1か所で済ませられるから」22.7%、「窓口があることを知らなかったから」13.9%という順になっています。



○ 市役所以外のサービス窓口は現行の配置でよい

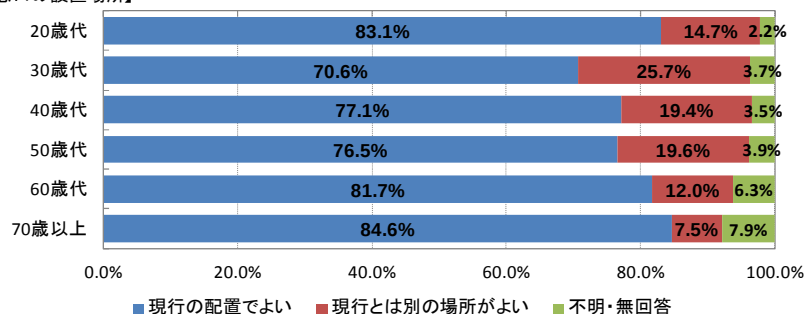
「市役所以外のサービス窓口は、どのような場所に設置されることを望みますか」という設問に対しては、78.7%のかたが「現行の配置でよい」と答えています。

これを年代別で見ると、「現行の配置でよい」という意見が各年代に幅広く支持されていることが分かります。



■ 年代別

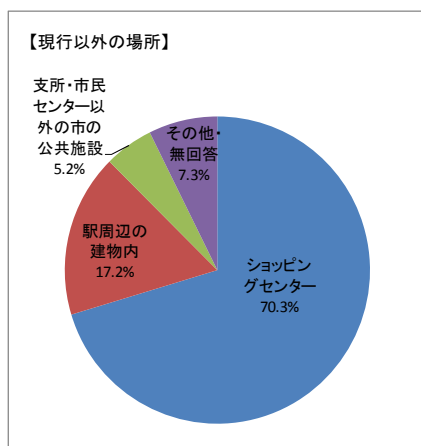
【窓口の設置場所】



○ 別の場所にするなら「ショッピングセンター」

「現行とは別の場所がよい」を選んだかたに、具体的にどのような場所がよいか尋ねたところ、「ショッピングセンター」が70.3%と最も多く、次いで「駅周辺の建物内」17.2%、「支所・市民センター以外の市の公共施設」5.2%という順になりました。

これを年代別、職業別、地区別で見ると、いずれも「ショッピングセンター」が他の回答を圧倒する結果となっています。

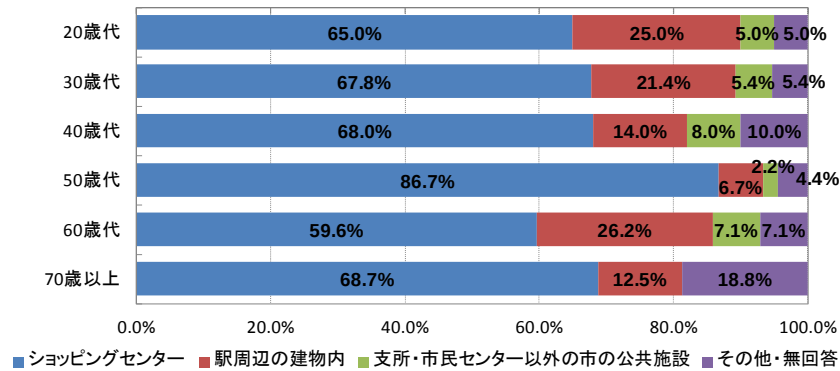


市民センター



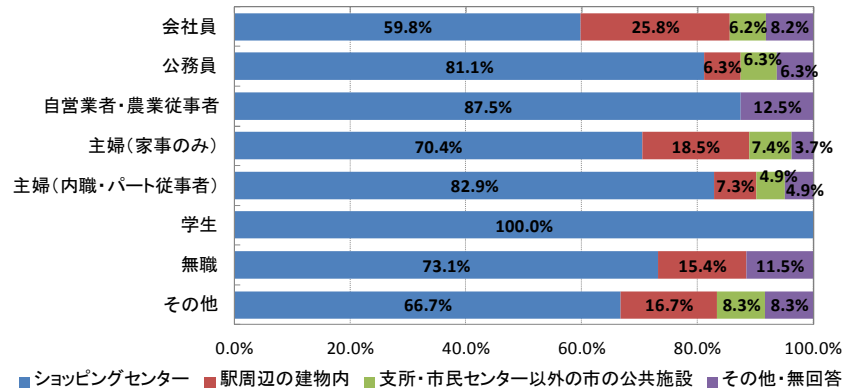
年代別

【現行以外の場所】



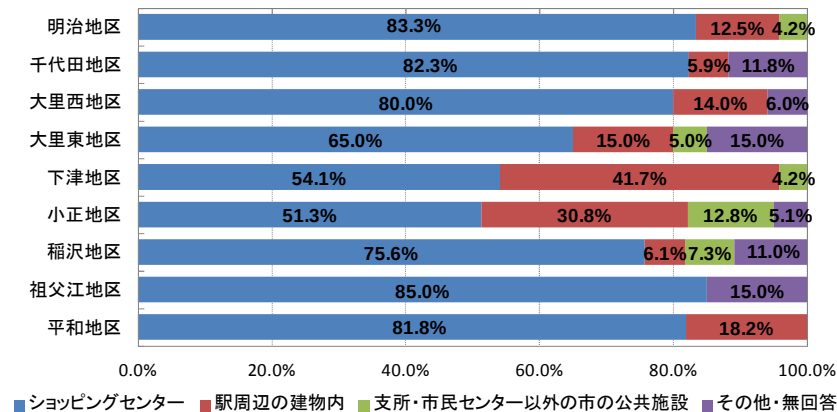
職業別

【現行以外の場所】



地区別

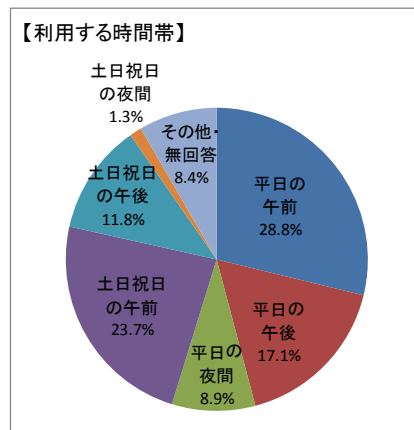
【現行以外の場所】



○ 3割以上のかたが休日の窓口開設を望む

「市役所を含めたサービス窓口について、主にどの時間帯での利用を望みますか」という設問に対しては、平日の利用を望むかたが昼夜合わせて 54.8%、土日祝日の利用を望むかたが昼夜合わせて 36.8%という結果となり、休日の窓口開設を望む意見が一定程度あることがうかがえます。

これを性別で見ると女性より男性のかたに、年代別では 20 歳から 50 歳代のかたに、職業別では会社員、公務員、主婦（内職・パート従事者）、学生のかたに、休日の利用を望む意見が多いことが分かります。

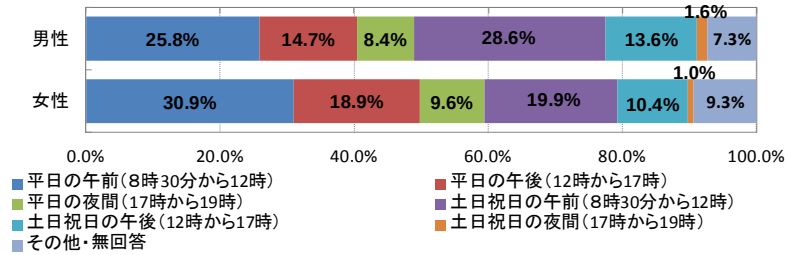


市役所



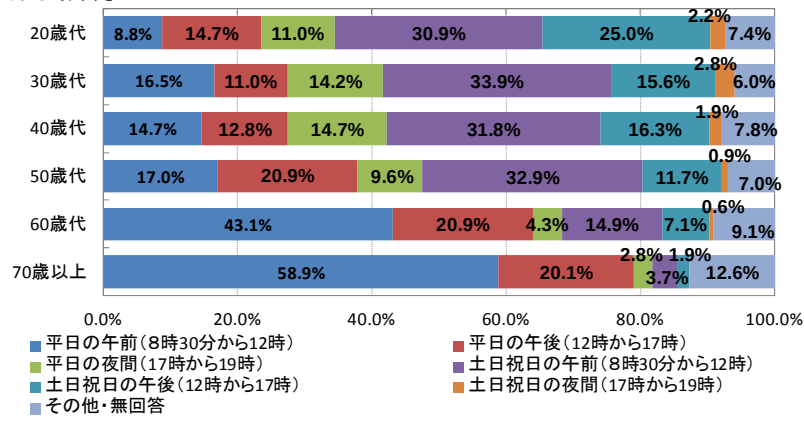
性別

【利用する時間帯】



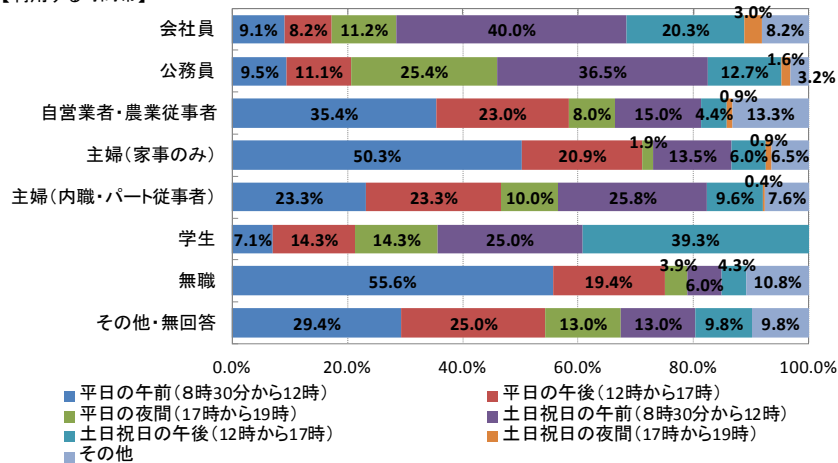
年代別

【利用する時間帯】



職業別

【利用する時間帯】



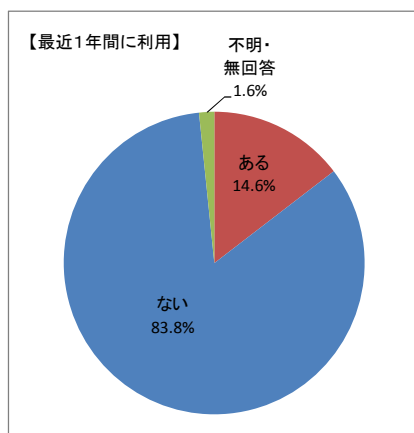
② 生涯学習施設

市内には公民館 7 か所を始めとする生涯学習施設が 14 か所あります。こうした施設の利用について、調査しました。

○ 女性の利用が男性の 2 倍

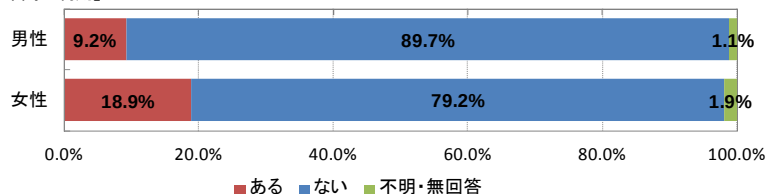
「最近 1 年間に生涯学習施設を利用したことがありますか」という設問に対しては、14.6%のかたが「ある」と答えています。

回答者の属性で見ると、女性のかたの利用が男性の 2 倍の比率となり、また、年齢が上がるにつれて利用率が高くなる傾向がうかがえます。



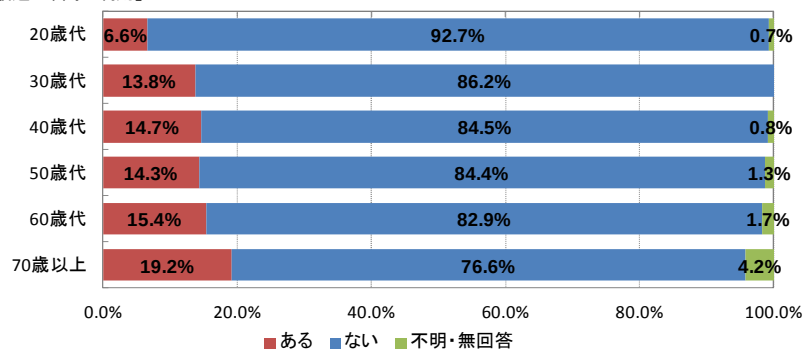
■ 性別

【最近1年間に利用】

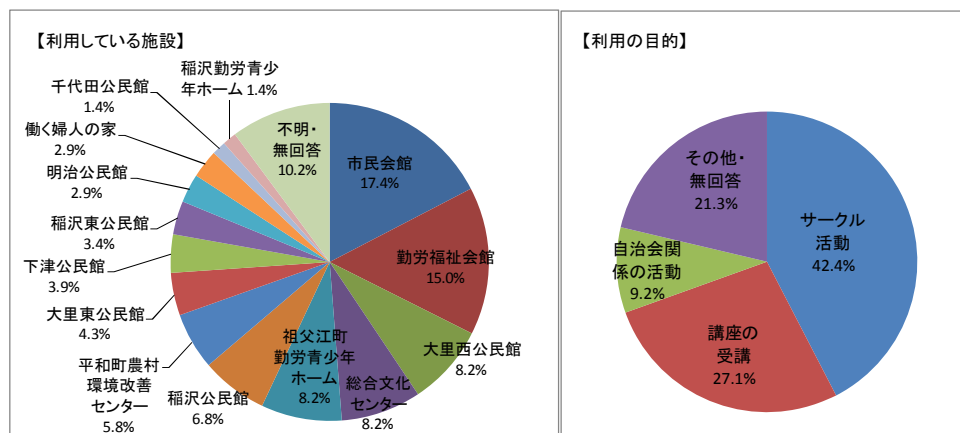


■ 年代別

【最近1年間に利用】



利用している施設としては、自宅から最寄りの公民館等を利用することが多く、施設を利用している目的は、「サークル活動」42.4%、「講座の受講」27.1%の順に多い結果となっています。



公民館



市民会館



勤労福祉会館

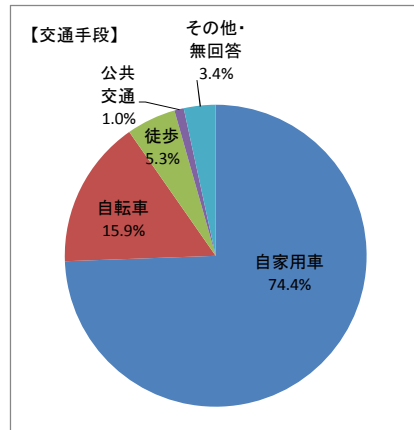


○ 自家用車の利用が7割以上

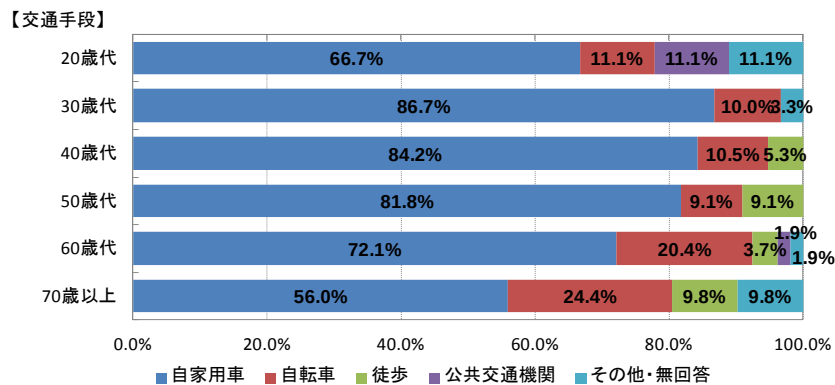
「生涯学習施設へはどのような交通手段で行きますか」という設問に対しては、「自家用車」と答えたかたが74.4%と最も多く、次いで「自転車」15.9%、「徒歩」5.3%という順になっています。

これを年代別で見ると、20歳代を除き、年齢が上がるにつれて自転車、徒歩の比率が高くなる傾向が見られます。

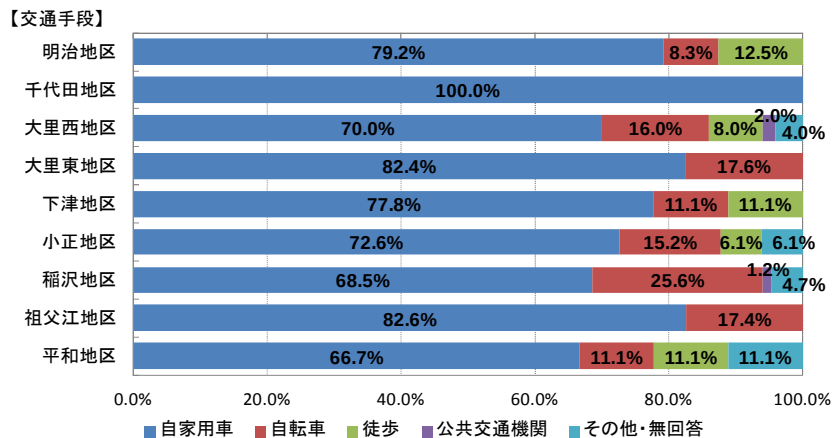
また、地区別では、いずれの地区も自家用車の利用が圧倒的に多い結果となっています。



■ 年代別



■ 地区別

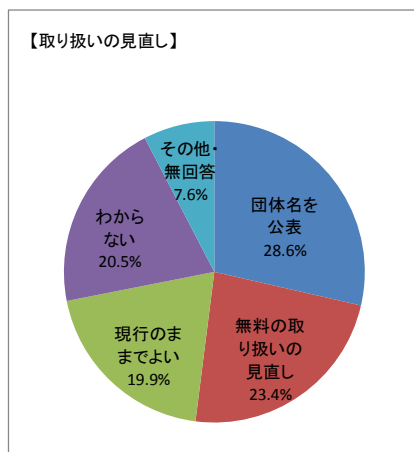


○ 無料の取り扱いに対しては半数以上のかたが見直しを容認

市民による様々な活動を支援するため、市は、公民館活動団体として認定した団体に対して、公民館等の施設を月2回まで無料で利用でき、かつ優先予約ができるようにしています。この制度は公民館の利用者に定着している一方、認定団体以外のかたが利用しにくくなるなどの影響も出ています。

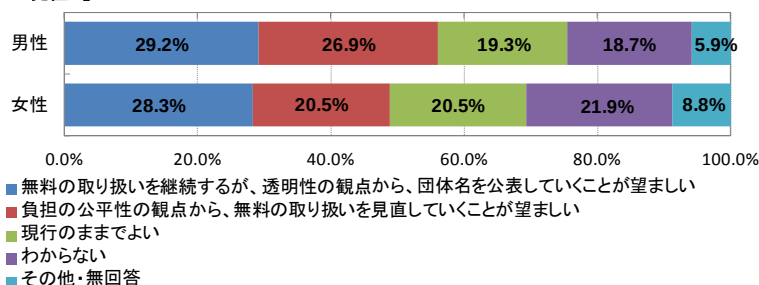
こうした無料の取り扱いを見直すべきかどうかを尋ねた設問に対しては、「無料の取り扱いを継続するが、透明性の観点から、団体名を公表していくことが望ましい」と答えたかたが28.6%、「負担の公平性の観点から、無料の取り扱いを見直していくことが望ましい」と答えたかたが23.4%と、合わせて52.0%のかたが何らかの見直しを容認しています。

これを性別で見ると女性より男性のかたに、年代別では30歳から50歳代のかたに、見直しを求める意見が多いことが分かります。



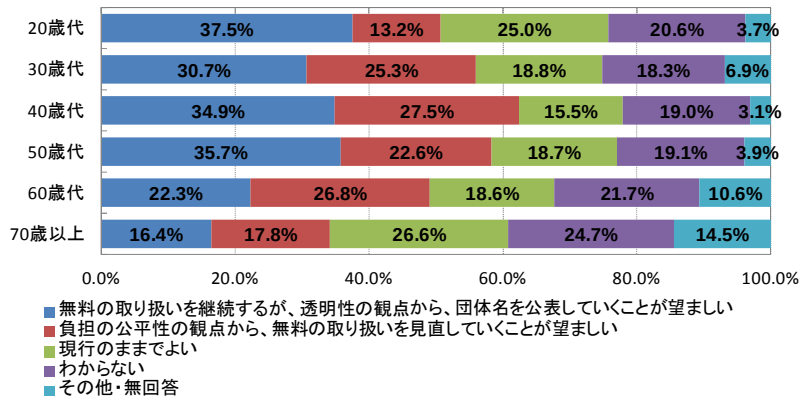
■ 性別

【取り扱いの見直し】



■ 年代別

【取り扱いの見直し】



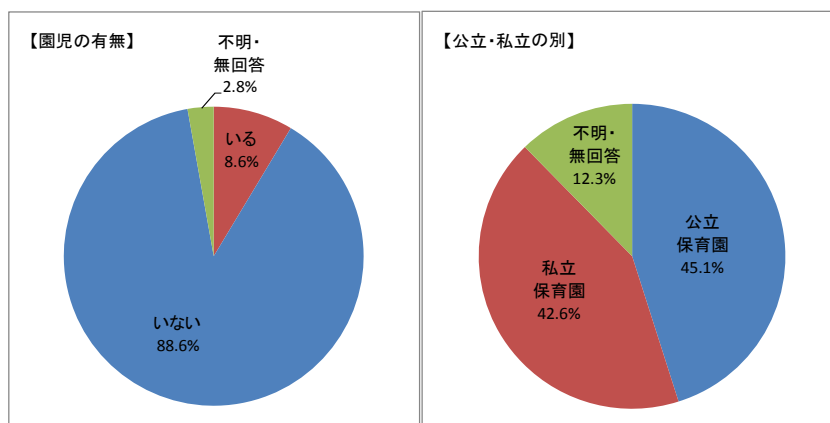
③ 保育園

市内には公立保育園が 19 園あります。少子化の影響によって、園児数が定員割れの保育園が 17 園に上り、うち入所率が 70%未満の保育園が 11 園あります。公立保育園のあり方について調査しました。

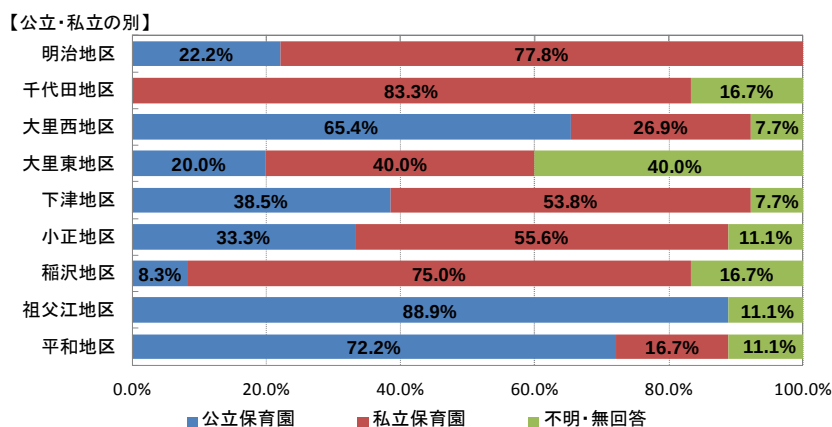
○ 公立・私立の割合は、保育園の立地に応じて地区ごとに大きなばらつきがある

それぞれのご家庭の保育園児の有無を尋ねた設問に対しては、8.6%のかたが「いる」と答え、公立・私立の別では「公立保育園」45.1%、「私立保育園」42.6%となっています。

公立・私立の割合を地区別で見ると、下のグラフのとおり、保育園の立地に応じて地区ごとに大きなばらつきが見られます。

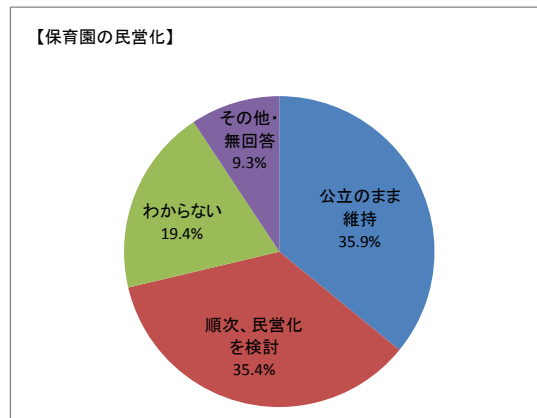


■ 地区別



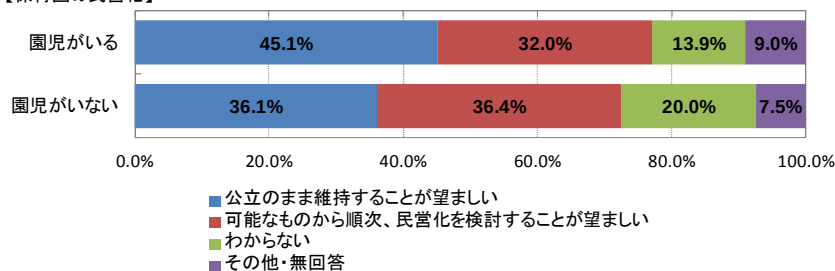
○ 公立保育園の民営化は賛否が分かれる

「公立保育園の民営化について、あなたの考えに最も近いものを選んでください」という設問に対しては、「公立のまま維持」、「順次、民営化を検討」、「その他・わからない」に三分される結果となり、民営化の是非を判断する材料を市がまだ十分に提供できていないことが原因と考えられます。



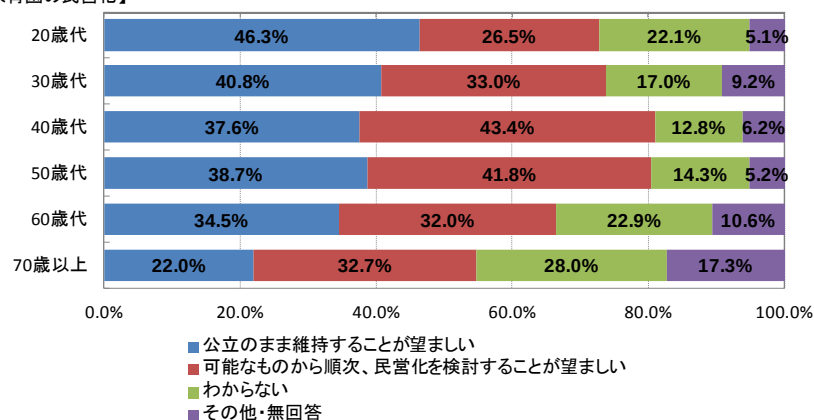
■ 園児の有無の別

【保育園の民営化】



■ 年代別

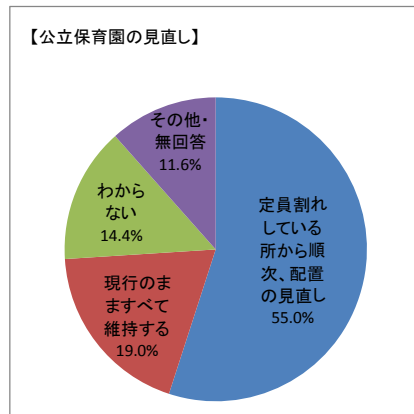
【保育園の民営化】



○ 半数以上のかたが公立保育園の見直しに賛成

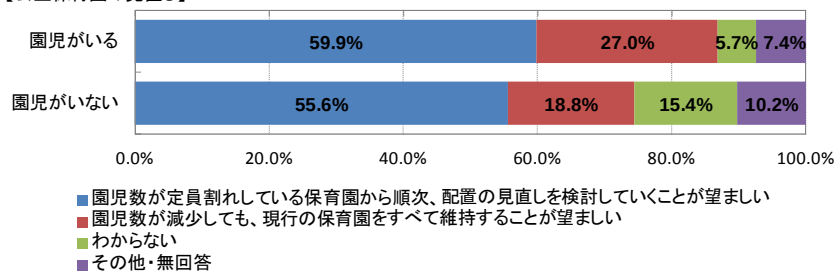
「公立保育園を維持するとした場合の今後のあり方について、あなたの考えに最も近いものを選んでください」という設問に対しては、55.0%のかたが「園児数が定員割れしている保育園から順次、配置の見直しを検討していくことが望ましい」と答えています。

これを園児の有無の別で見ると、園児がいるご家庭のかたに、年代別では 30 歳から 50 歳代のかたに、見直しを求める意見が多いことが分かります。



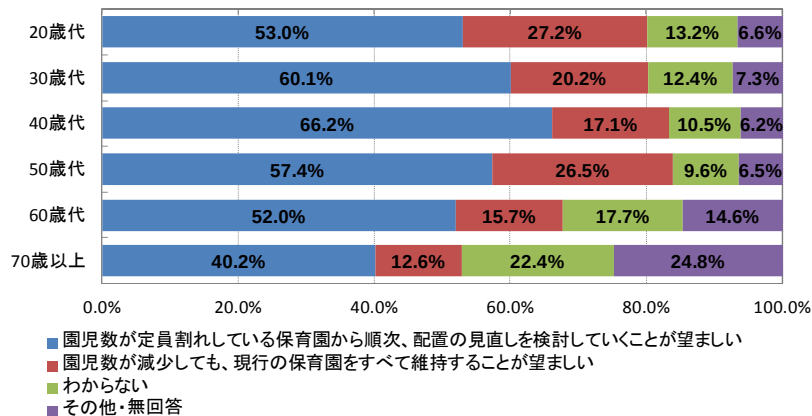
■ 園児の有無の別

【公立保育園の見直し】

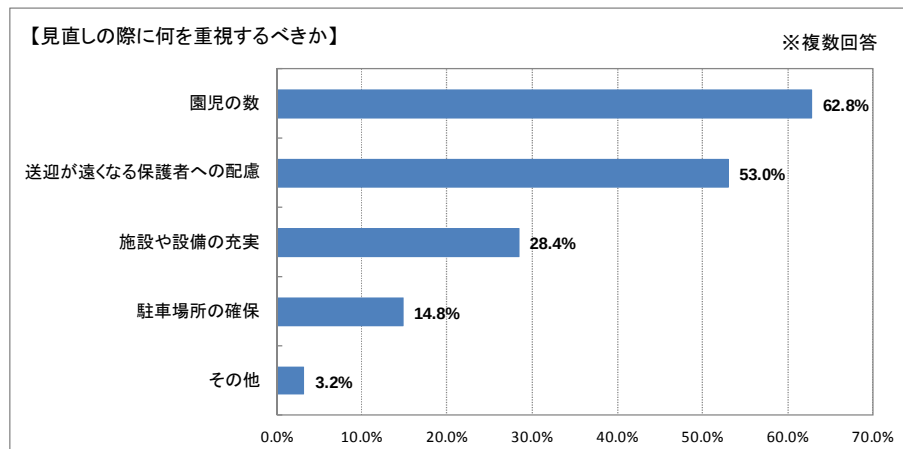


■ 年代別

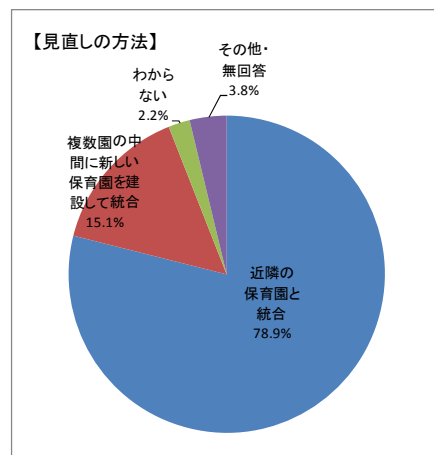
【公立保育園の見直し】



また、「見直しを検討」と答えたかたに対して「検討する際に何を重視するべきと考えますか」と質問したところ、「園児の数」が62.8%と最も多く、次いで「送迎が遠くなる保護者への配慮」53.0%という順になりました。



さらに、「見直しを検討する場合、どのような方法で行うことが望ましいと考えますか」と質問したところ、「近隣の保育園と統合」が78.9%、「複数園の中間に新しい保育園を建設して統合」が15.1%という結果になりました。

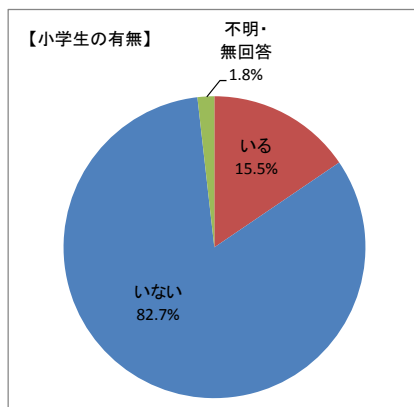


④ 小学校

市内には小学校が 23 校ありますが、少子化の影響によって、1 クラスだけの学年のある学校が 11 校あります。小学校のあり方について、調査しました。

○ 小学生のいる家庭は 15 %

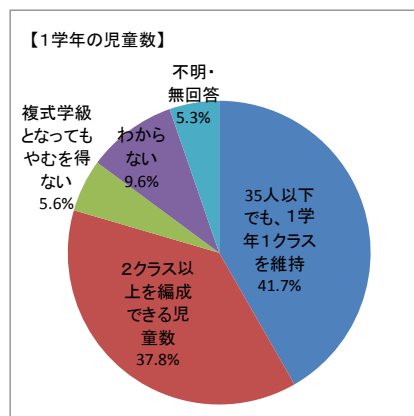
それぞれのご家庭の小学生の有無を尋ねた設問に対しては、15.5%のかたが「いる」と答えています。



○ 子育て家庭は1学年2クラス以上の児童数を望んでいる

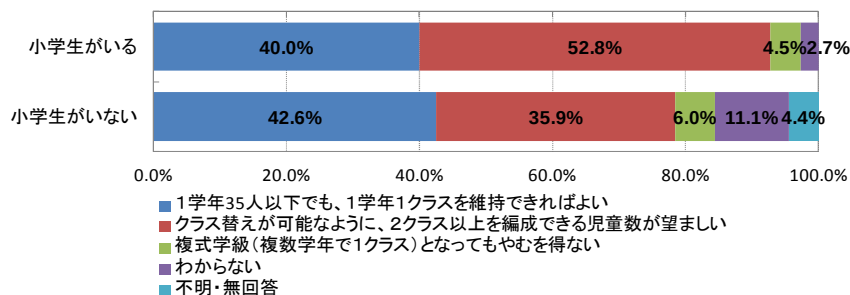
「1学年の児童数について、あなたの考えに最も近いものを選んでください」という設問に対しては、複式学級（複数学年で1クラス）を合わせて47.3%のかたが、1学年1クラスの現状もやむを得ないと答え、37.8%のかたが「2クラス以上を編成できる児童数が望ましい」と答えています。

ただし、これを小学生の有無の別で見ると、小学生のいるご家庭のかたで、年代別では、子育て世代である30歳から40歳代のかたで、1学年2クラス以上の児童数を望む意見が大きく上回っていることが分かります。



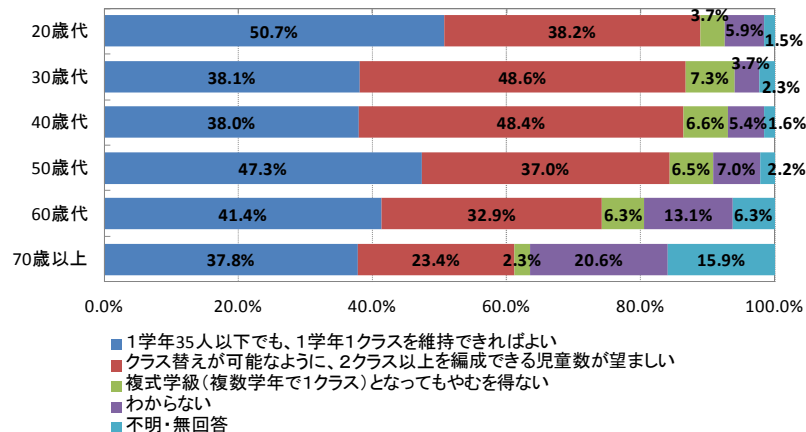
■ 小学生の有無の別

【1学年の児童数】



■ 年代別

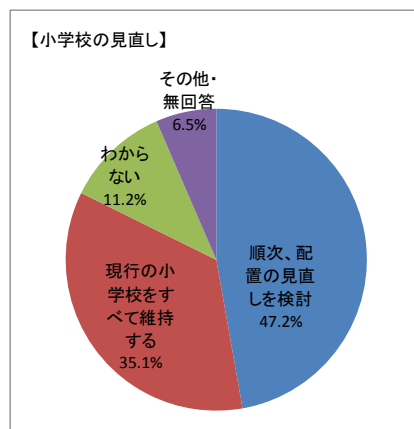
【1学年の児童数】



○ 子育て家庭は小学校の配置の見直しを求める意見が多い

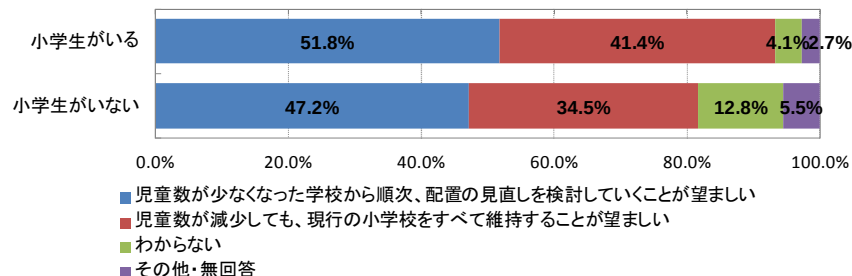
「小学校の今後のあり方について、あなたの考えに最も近いものを選んでください」という設問に対しては、配置の見直しを望む意見が 47.2%と最も多くなりましたが、その一方で、現行の小学校の維持を望む意見も 35.1%あり、小学校の見直しには慎重な意見も多いことがうかがえます。

ただし、これを小学生の有無の別で見ると小学生のいるご家庭のかたに、年代別では、子育て世代である 30 歳から 40 歳代のかたに、配置の見直しを求める意見が大きく上回る結果となっています。



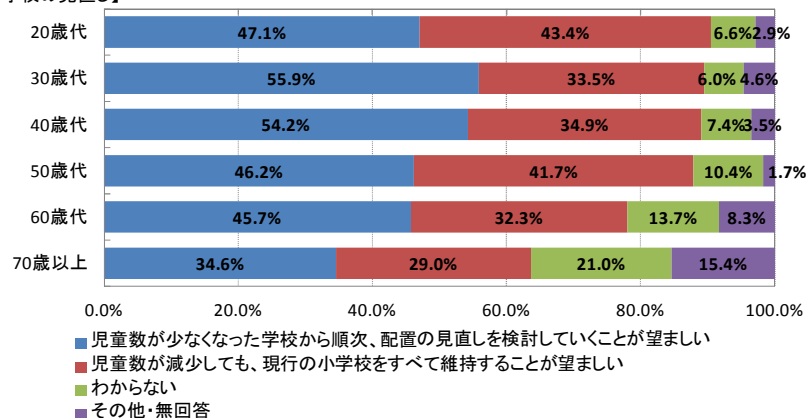
■ 小学生の有無の別

【小学校の見直し】

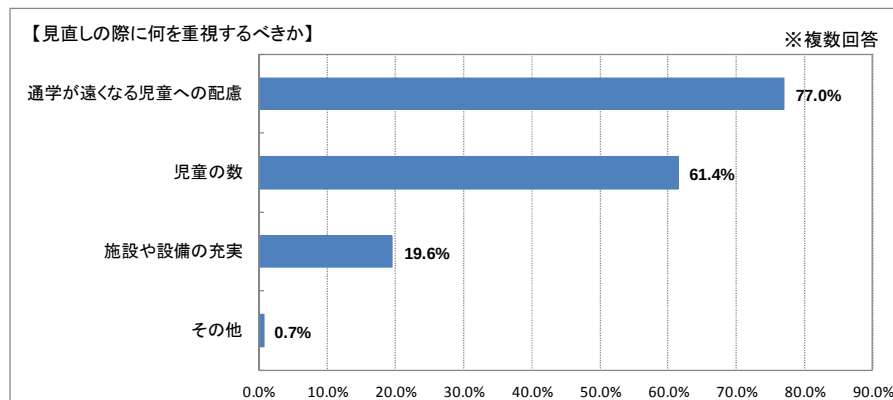


■ 年代別

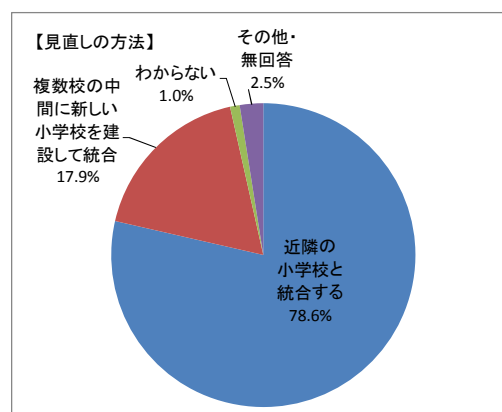
【小学校の見直し】



また、「見直しを検討」と答えたかたに対して「検討する際に何を重視するべきと考えますか」と質問したところ、「通学が遠くなる児童への配慮」が77.0%と最も多く、次いで「児童の数」61.4%という順になりました。



さらに、「見直しを検討する場合、どのような方法で行うことが望ましいと考えますか」と質問したところ、「近隣の小学校と統合」が78.6%、「複数校の中間に新しい小学校を建設して統合」が17.9%という結果になりました。



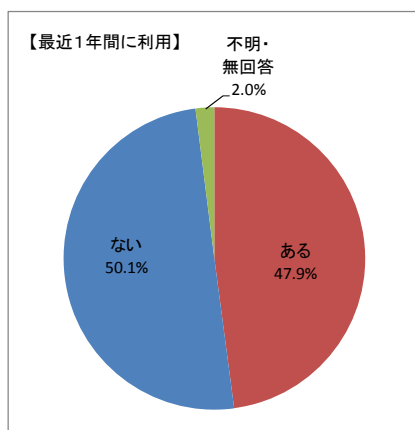
⑤ 図書館

市内には、合併前の旧市町単位に3か所の図書館、旧稲沢市の公民館内に7か所の図書室があります。図書館の利用について、調査しました。

○ ほぼ半数のかたが図書館を利用

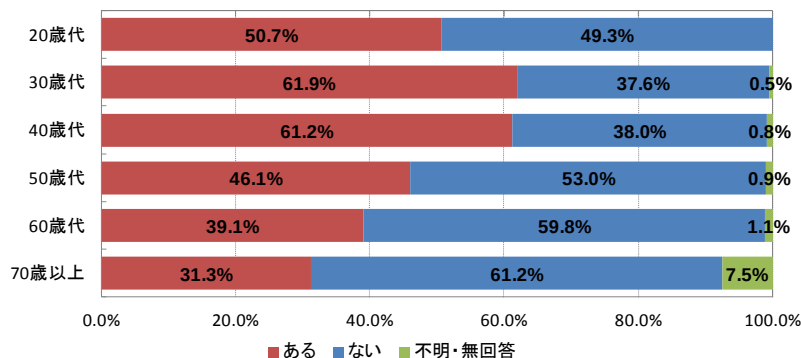
「最近1年間に図書館を利用したことがありますか」という設問に対しては、47.9%のかたが「ある」と答えています。

これを年代別で見ると30歳から40歳代のかたに、職業別では公務員、主婦（内職・パート従事者）、学生のかたに利用が多いことが分かります。



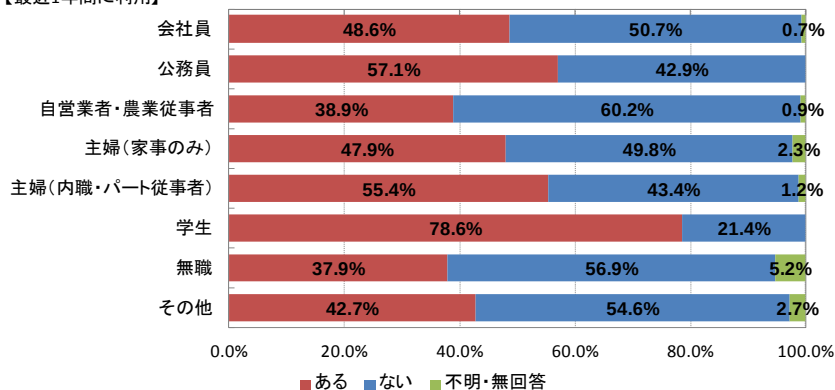
■ 年代別

【最近1年間に利用】

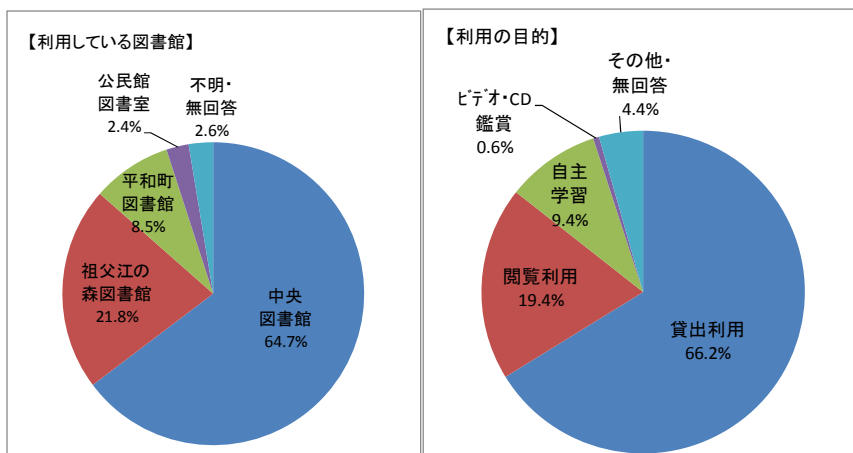


■ 職業別

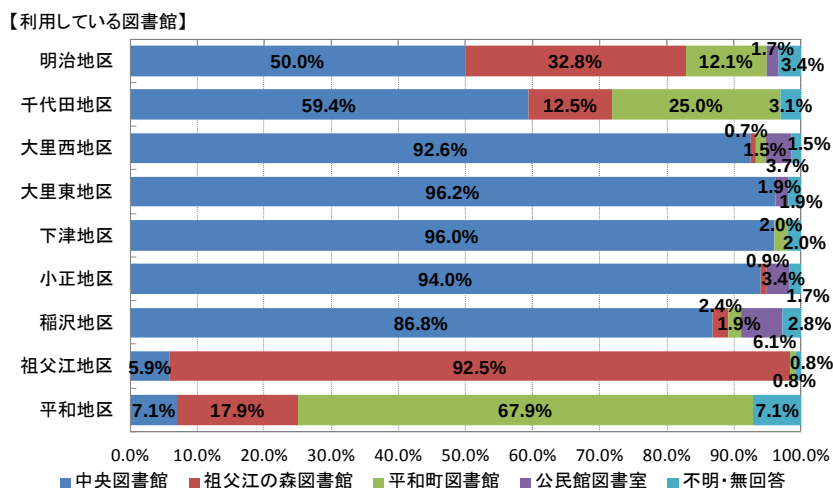
【最近1年間に利用】



利用する施設別では、自宅から最寄りの図書館を利用することが多く、目的別では「貸出利用」66.2%、「閲覧利用」19.4%、「自主学习」9.4%の順に多い結果となっています。



■施設別地区別

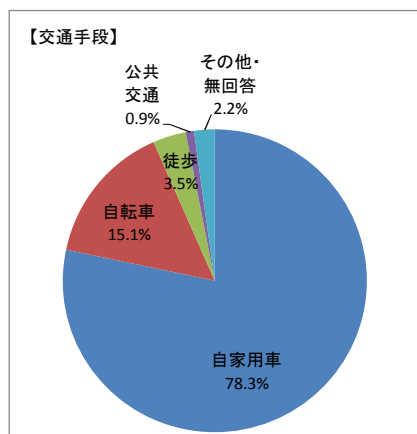


○ 自家用車の利用が8割弱

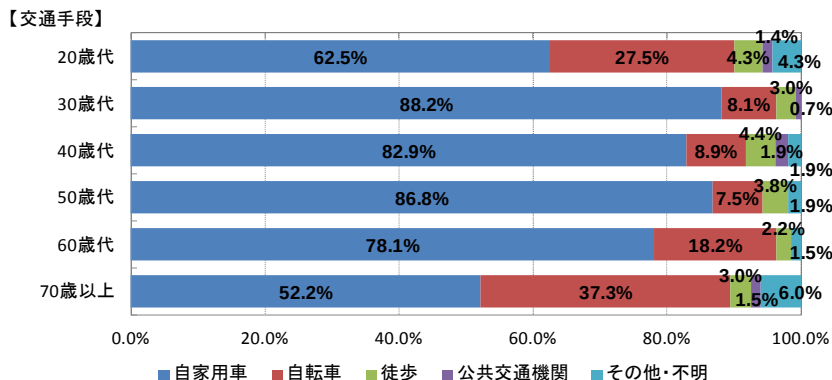
「図書館へはどのような交通手段で行きますか」という設問に対しては、「自家用車」と答えたかたが78.3%と最も多く、次いで「自転車」15.1%、「徒歩」3.5%という順になっています。

これを年代別で見ると、20歳代及び60歳以上で自転車の比率が比較的高くなっています。

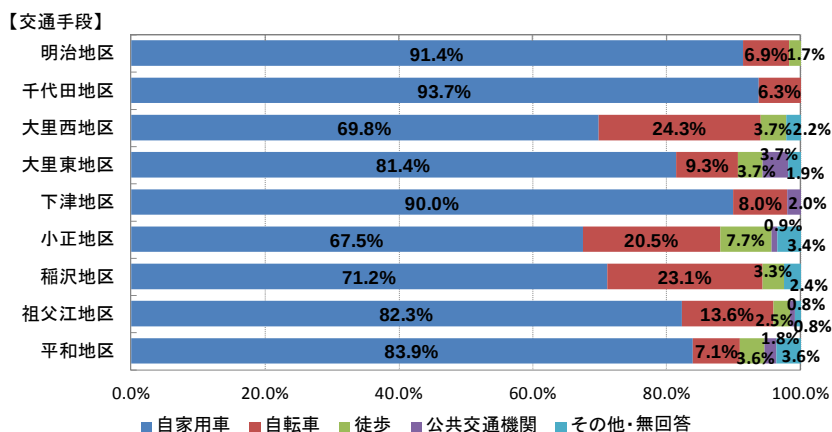
また、地区別では、いずれの地区も自家用車の利用が圧倒的に多い結果となっています。



■ 年代別

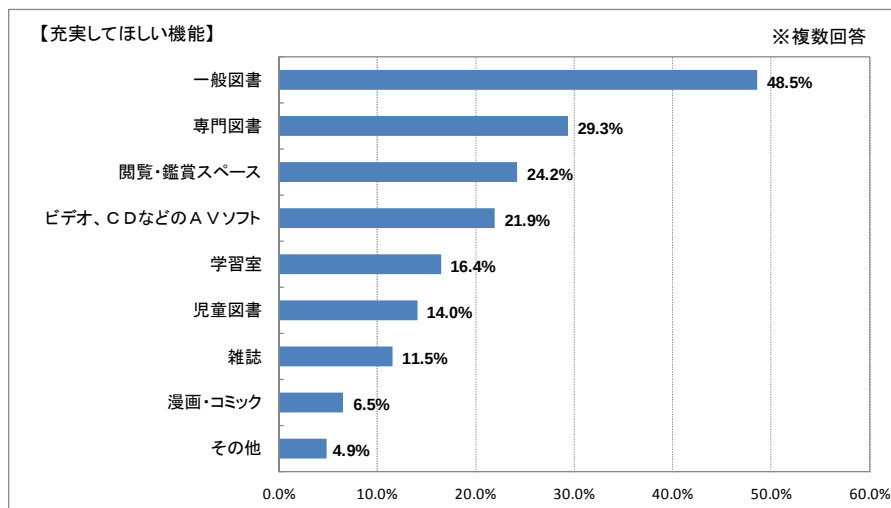


■ 地区別



○ 図書の充実を望む意見が多い

図書館に充実してほしい機能について尋ねた設問に対しては、「一般図書」48.5%、「専門図書」29.3%、「閲覧・鑑賞スペース」24.2%という順になりました。



中央図書館



平和町図書館



祖父江の森図書館

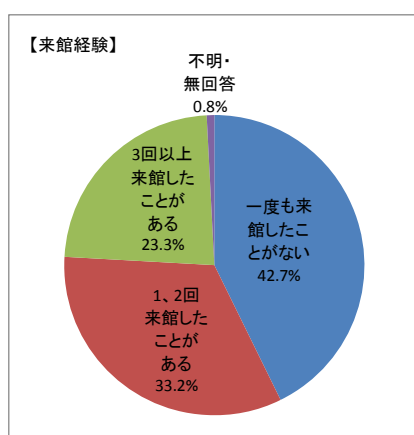
⑥ 美術館

荻須記念美術館のあり方について、調査しました。

○ 一度も来館したことがないかたが4割以上

「今までに荻須記念美術館に何回来館したことがありますか」という設問に対しては、「来館したことがある」と答えたかたが合わせて56.5%、「一度も来館したことがない」と答えたかたが42.7%という結果になりました。

これを性別で見ると女性より男性、年代別では20歳から30歳代、地区別では下津地区、祖父江地区、平和地区において、一度も来館したことがないかたの比率が高い結果となっています。



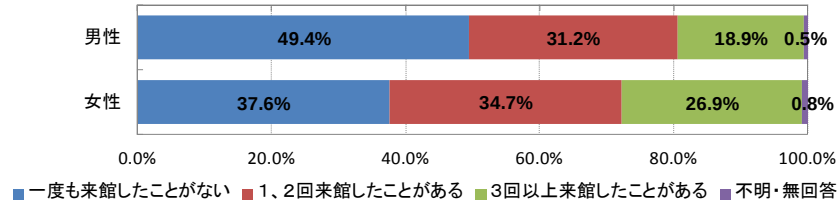
美術館正面



アトリエ

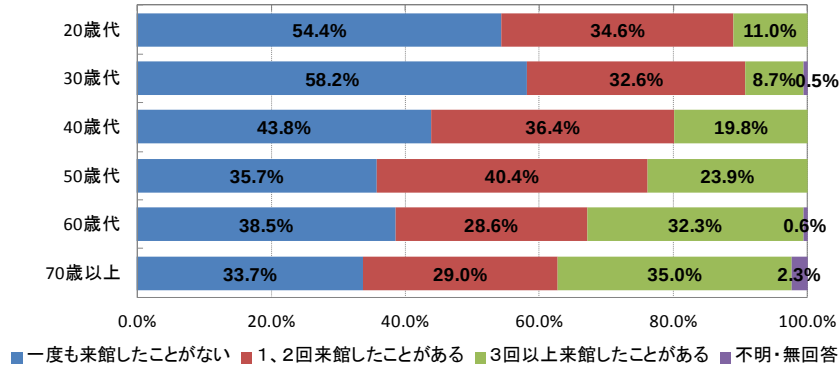
■性別

【来館経験】



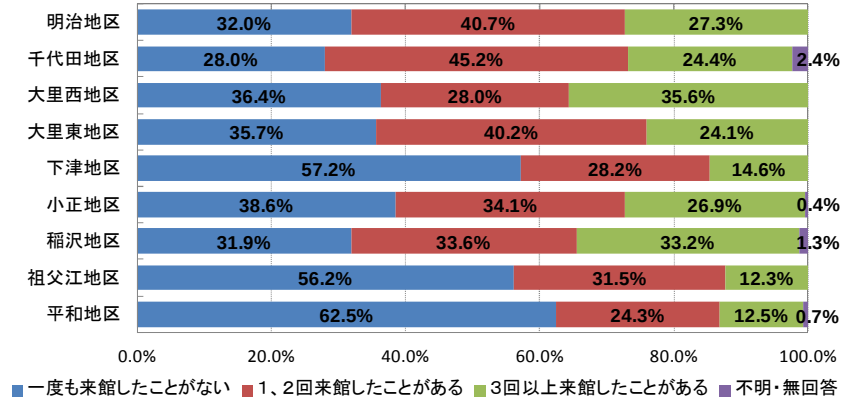
■年代別

【来館経験】



■地区別

【来館経験】

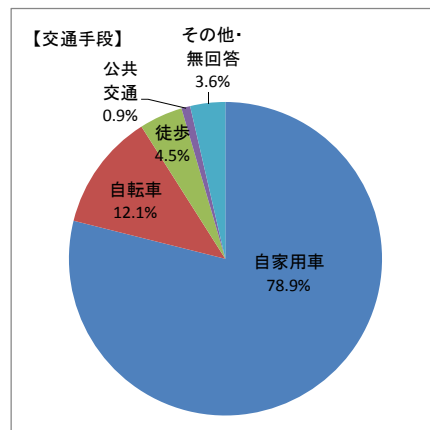


○ 自家用車の利用が8割弱

「美術館へはどのような交通手段で行きましたか」という設問に対しては、「自家用車」と答えたかたが78.9%と最も多く、次いで「自転車」12.1%、「徒歩」4.5%という順になっています。

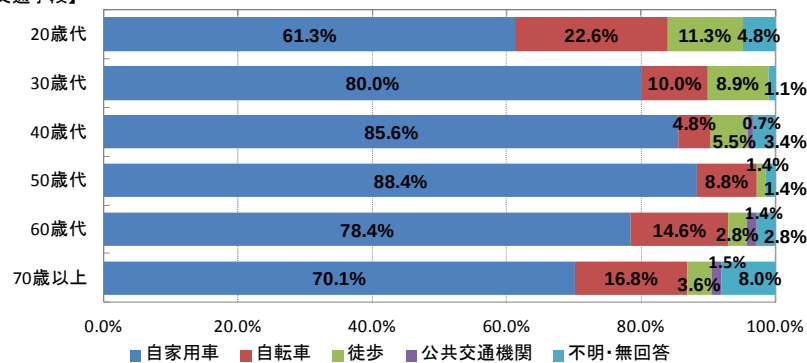
これを年代別で見ると、20歳代及び60歳以上で自転車の比率が比較的高くなっています。

また、地区別では、美術館のある稲沢地区を除き、自家用車の利用が圧倒的に多い結果となっています。



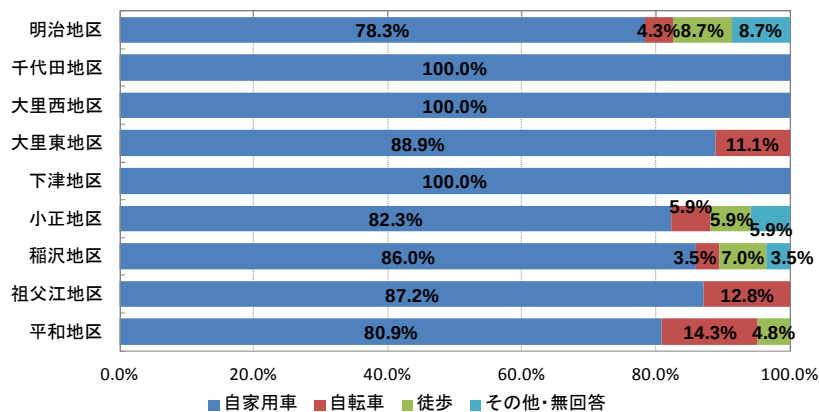
■ 年代別

【交通手段】



■ 地区別

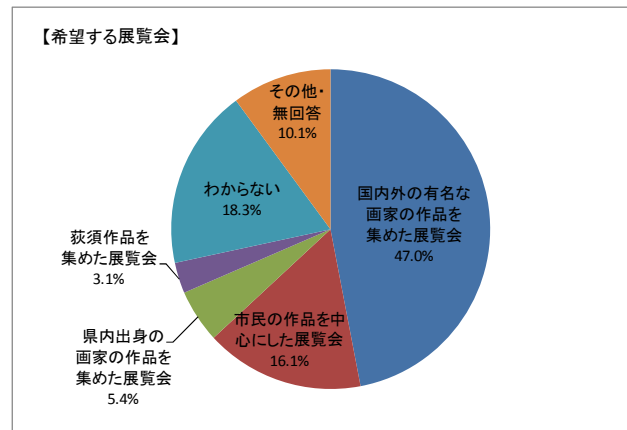
【交通手段】



○ 国内外の有名な画家の展覧会を望む意見が半数弱

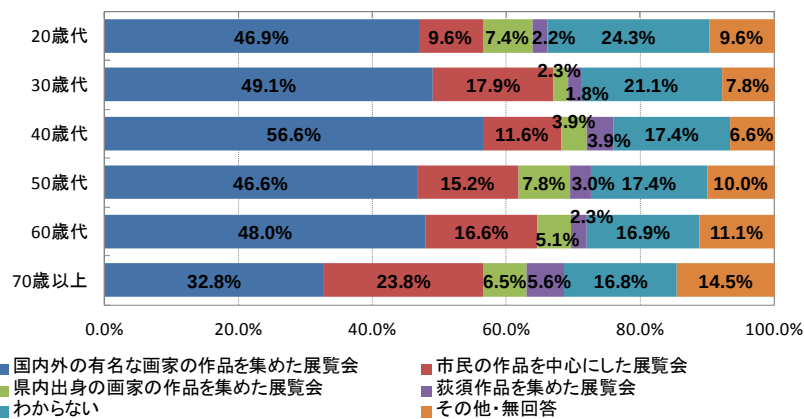
「どのような展覧会が開催されれば、来館したいと思いますか」という設問に対しては、「国内外の有名な画家の作品を集めた展覧会」と答えたかたが 47.0%、次いで「市民の作品を中心にした展覧会」16.1%という順になりました。

これを年代別で見ると、すべての年代において国内外の有名な画家の展覧会を望む意見が多数を占めますが、年齢が高くなるにつれて、市民の作品を中心にした展覧会を望む意見の比率が高くなる傾向がうかがえます。



■ 年代別

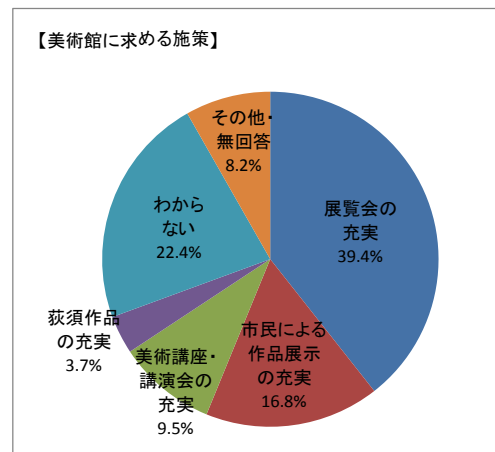
【希望する展覧会】



○ 求める施策は「展覧会の充実」

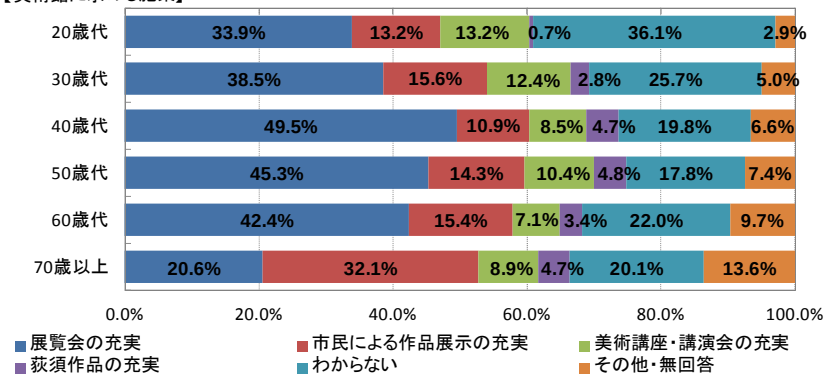
美術館に求める施策について尋ねた設問に対しては、「展覧会の充実」と答えたかたが39.4%、次いで「わからない」22.4%、「市民による作品展示の充実」16.8%という順になりました。

これを年代別で見ると、前ページの記述と同様、年齢が高くなるにつれて市民による作品展示の充実を望む意見の比率が高くなる傾向が見られます。



■ 年代別

【美術館に求める施策】



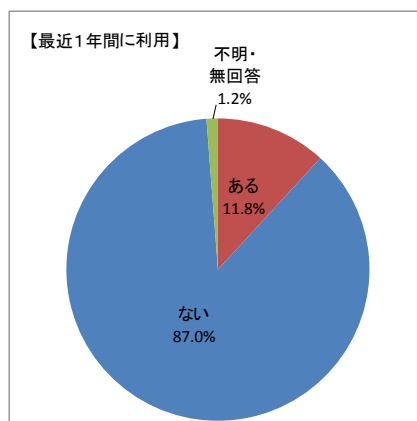
⑦ 体育館

市内には、一般の方々がご利用いただける体育館が4館あります。体育館の利用について、調査しました。

○ 体育館の利用は1割強

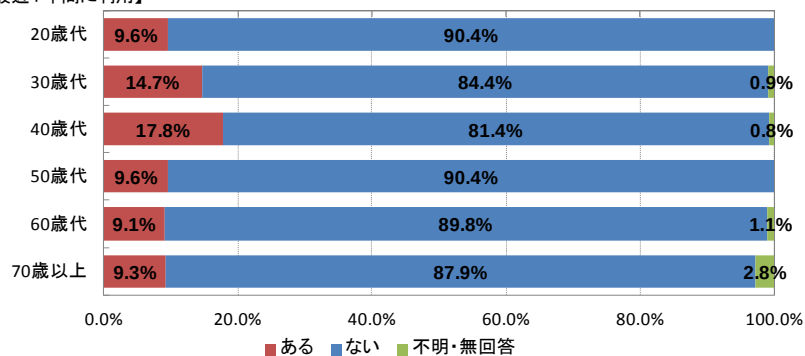
「最近1年間に体育館を利用したことがありますか」という設問に対しては、11.8%のかたが「ある」と答えています。

これを年代別で見ると、30歳から40歳代で利用するかたの比率が比較的高い傾向が分かります。



■ 年代別

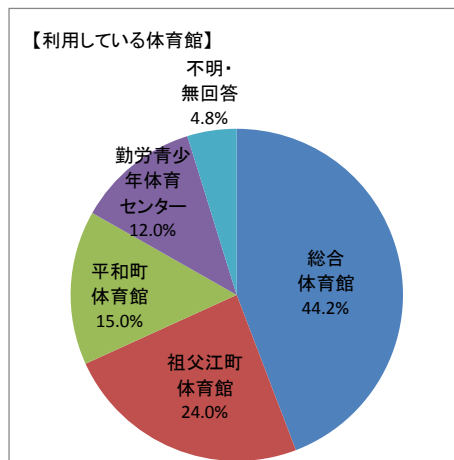
【最近1年間に利用】



総合体育館

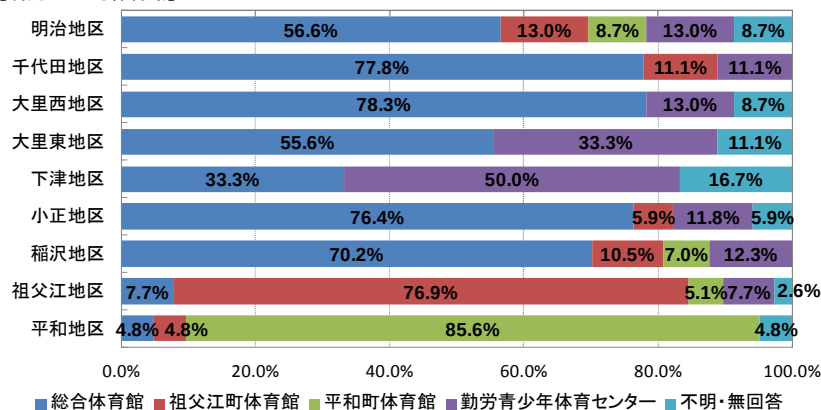


利用している体育館としては、自宅から最寄りの施設を利用することが多く、年代別で見ると、20 歳から 30 歳代で勤労青少年体育センターを利用するかたの比率が比較的高いことが分かります。



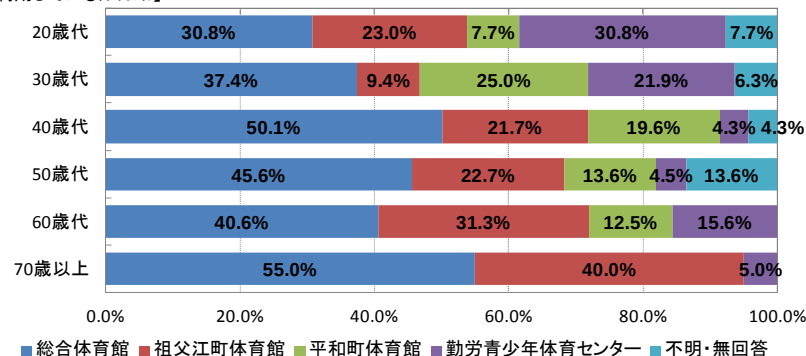
■施設別地区別

【利用している体育館】

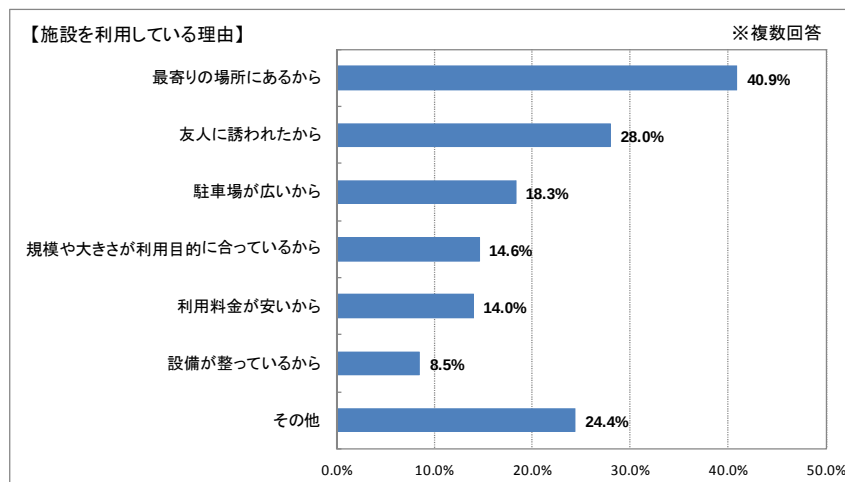


■施設別年代別

【利用している体育館】



また、施設を利用している理由としては、「最寄りの場所にあるから」が40.9%と最も多く、次いで「友人に誘われたから」28.0%という順になっています。



祖父江町体育館



平和町体育館

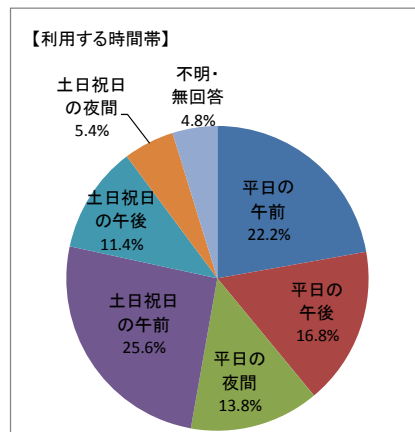


青少年体育センター

○ 平日の利用が半数以上

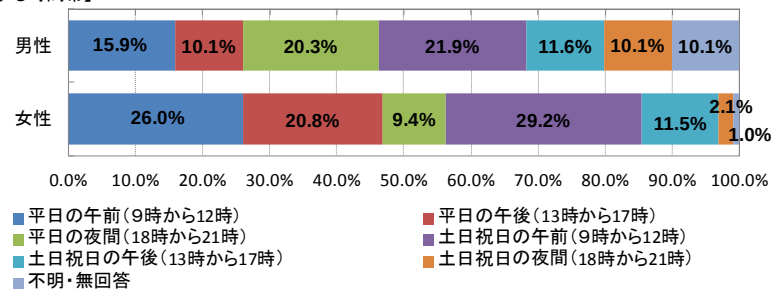
「主にどの時間帯で体育館を利用していますか」という設問に対しては、平日に利用すると答えたかたが合わせて 52.8%、土日祝日に利用すると答えたかたが合わせて 42.4% という結果になりました。

これを性別で見ると男性より女性のかたに、年代別では 60 歳以上のかたに、平日を利用する比率が高い結果となっています。



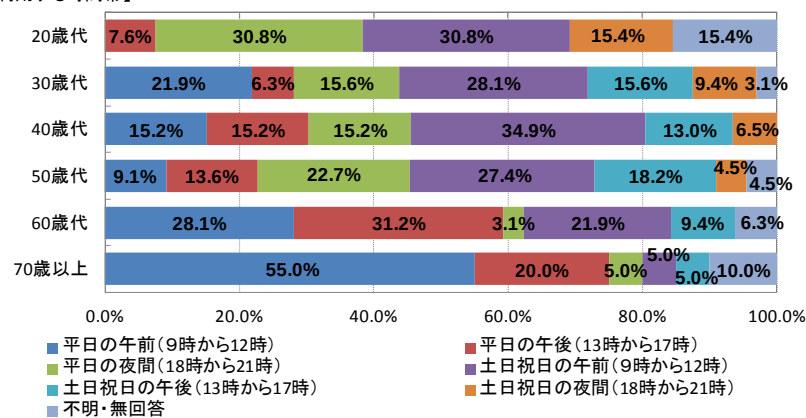
■ 性別

【利用する時間帯】



■ 年代別

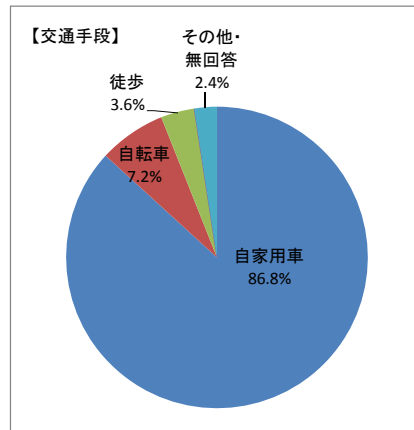
【利用する時間帯】



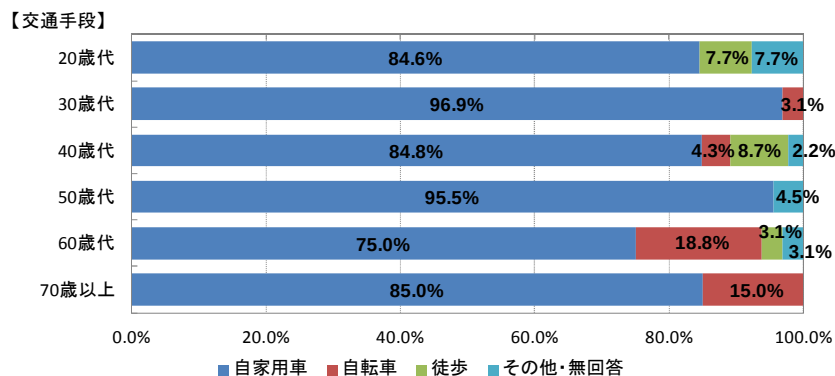
○ 自家用車の利用が8割以上

「体育館へはどのような交通手段で行きますか」という設問に対しては、「自家用車」と答えたかたが86.8%と最も多く、次いで「自転車」7.2%、「徒歩」3.6%という順になっています。

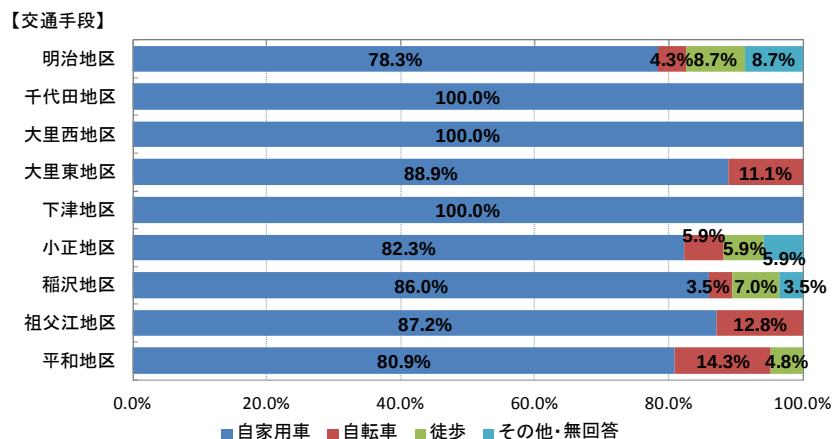
これを年代別で見ると、60歳以上で自転車の比率が比較的高くなり、地区別では、いずれの地区も自家用車の利用が圧倒的に多い結果となっています。



■ 年代別



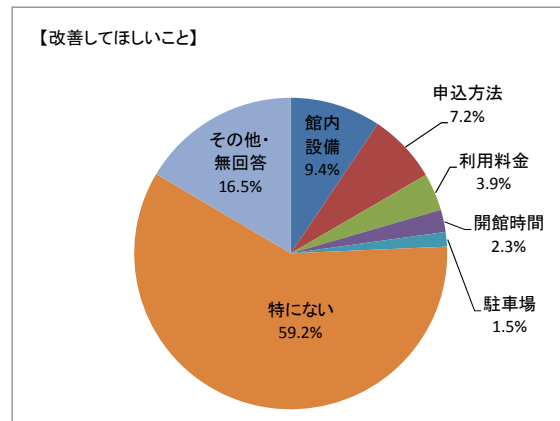
■ 地区別



○ 6割のかたが体育館の運営に満足

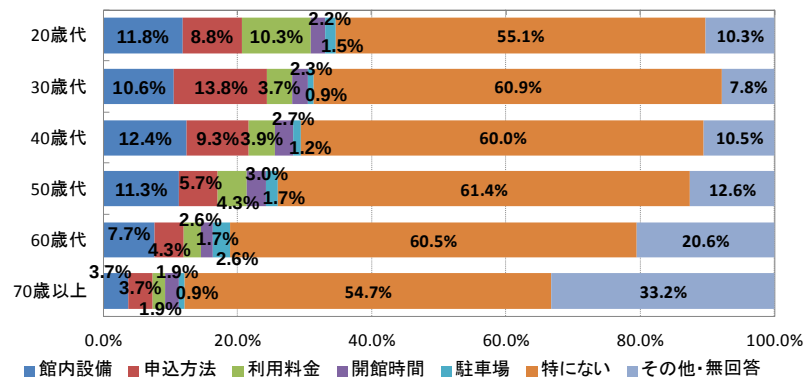
「体育館に改善してほしいと思うことはありますか」という設問に対しては、「特にない」が 59.2%と最も多く、現行の運営に満足されているかたが多数を占める結果となりました。なお、改善を望む意見としては、「館内設備」9.4%、「申込方法」7.2%、「利用料金」3.9%の順になっています。

これを年代別で見ると、20 歳から 50 歳代で館内設備や申込方法の改善を望むかたの比率が比較的高い結果となっています。



■ 年代別

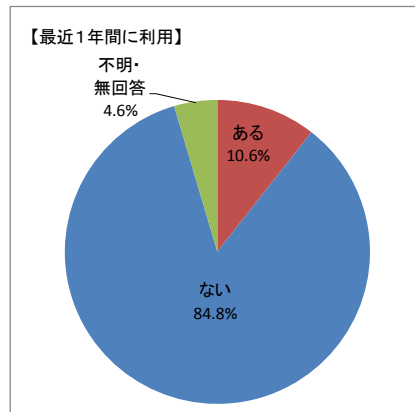
【改善してほしいこと】



○ 学校開放の体育館は1割のかたが利用

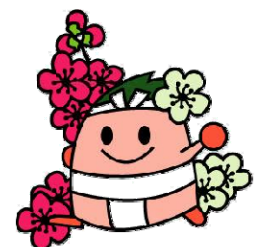
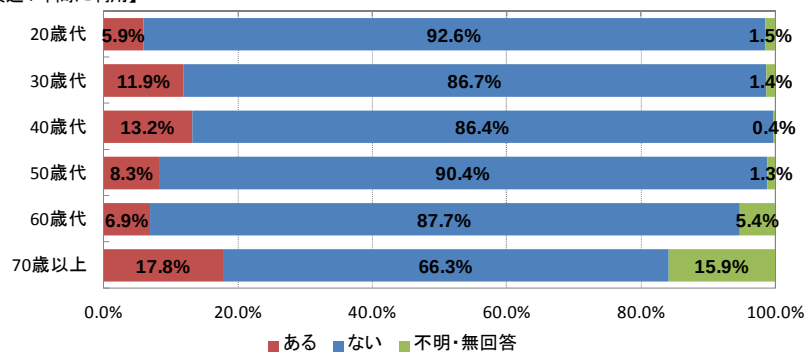
市は、小学校23校及び中学校9校の学校体育館を、学校の授業や行事に支障のない範囲で一般のかたに開放しています。「最近1年間に学校体育館を利用したことがありますか」と質問したところ、10.6%のかたが「ある」と答えています。

これを年代別で見ると、30歳から40歳代及び70歳以上で「ある」と答えたかたの比率が比較的高い結果となっています。



■ 年代別

【最近1年間に利用】



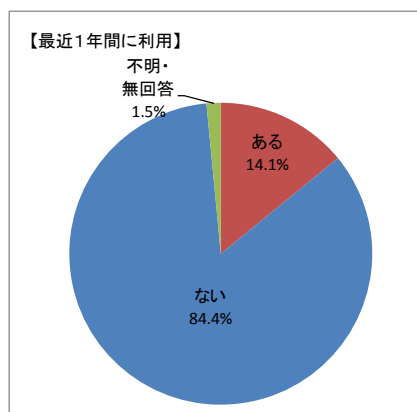
⑧ プール

市内には屋外5か所、屋内1か所の市営プールがあります。市営プールの利用について、調査しました

○ プールの利用は1割強

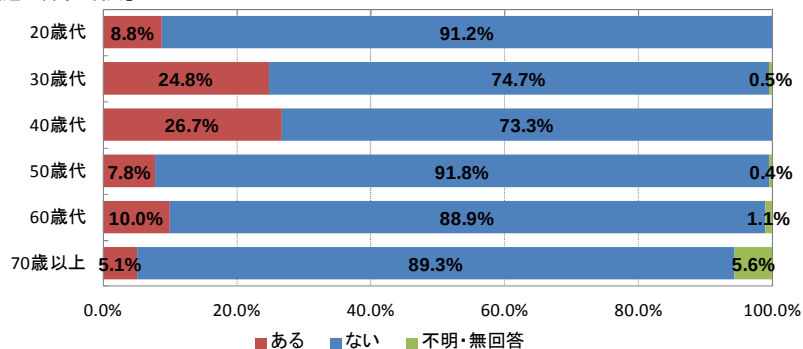
「最近1年間に市営プールを利用したことがありますか」という設問に対しては、14.1%のかたが「ある」と答えています。

これを年代別で見ると、体育館と同様、30歳から40歳代で利用するかたの比率が比較的高い傾向が分かります。



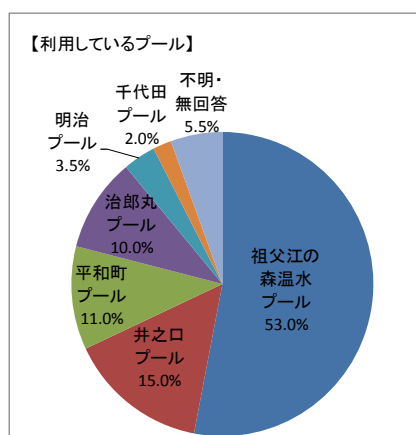
■ 年代別

【最近1年間に利用】



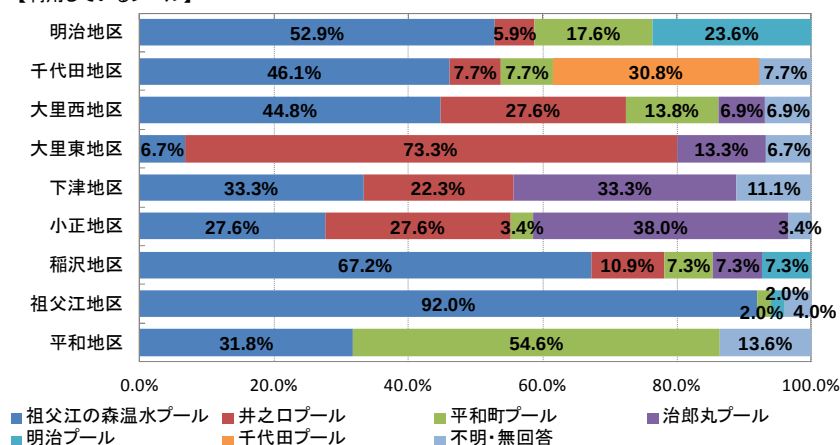
祖父江の森温水プール

利用しているプールとしては、自宅から最寄りの施設を利用することが多いことがうかがえます。

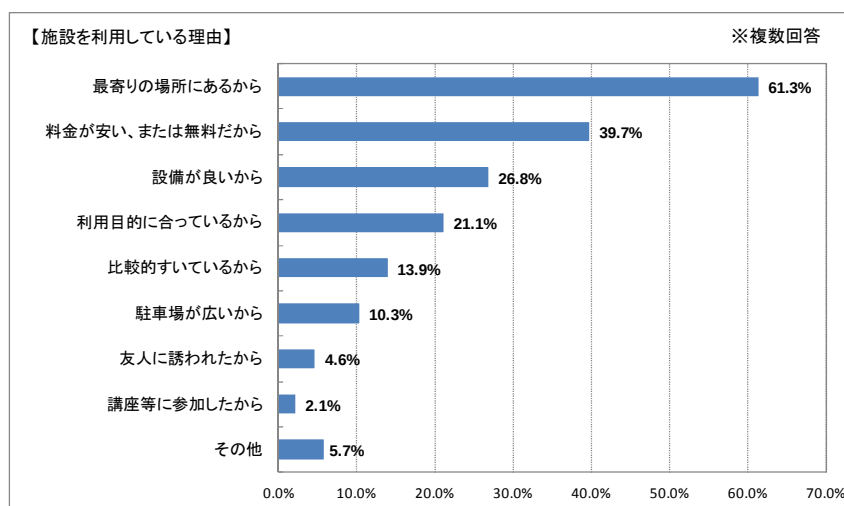


■施設別地区別

【利用しているプール】



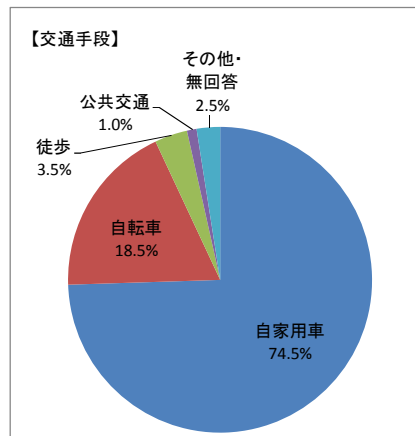
また、施設を利用している理由としては、「最寄りの場所にあるから」が61.3%と最も多く、次いで「料金が安い、または無料だから」39.7%、「設備が良いから」26.8%という順になっています。



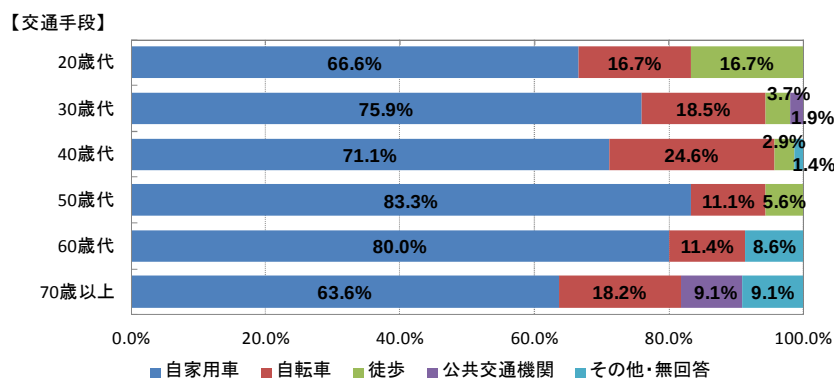
○ 自家用車の利用が4分の3

「市営プールへはどのような交通手段で行きますか」という設問に対しては、「自家用車」と答えたかたが74.5%と最も多く、次いで「自転車」18.5%、「徒歩」3.5%という順になっています。

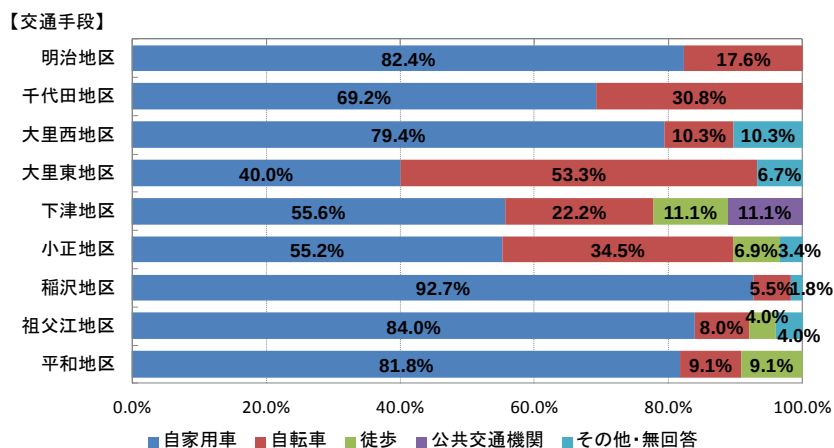
これを年代別で見ると、20歳から40歳代及び70歳以上で自転車の比率が比較的高くなり、地区別では、明治地区、千代田地区、大里東地区、下津地区、小正地区において、自転車の比率が比較的高い結果となっています。



■ 年代別



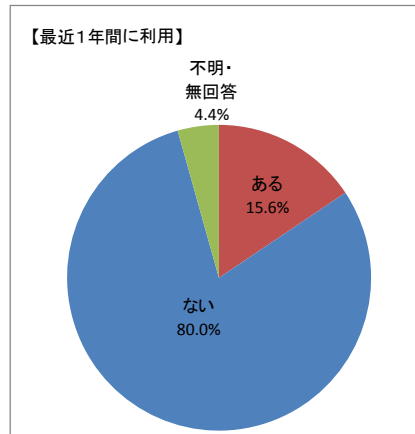
■ 地区別



○ 市営プール以外のプールを利用したかたは2割弱

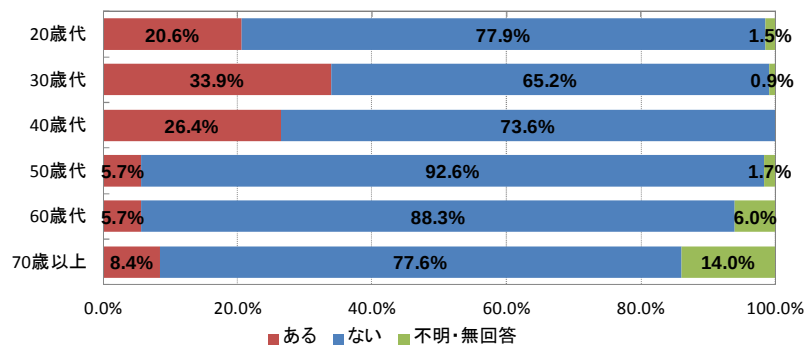
「最近1年間に市営プール以外のプールを利用したことがありますか」という設問に対しては、15.6%のかたが「ある」と答えています。

これを年代別で見ると、20歳から40歳代で利用するかたの比率が比較的高い傾向があることがわかります。

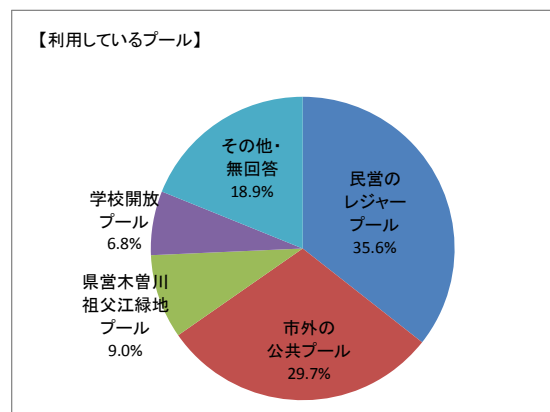


■ 年代別

【最近1年間に利用】



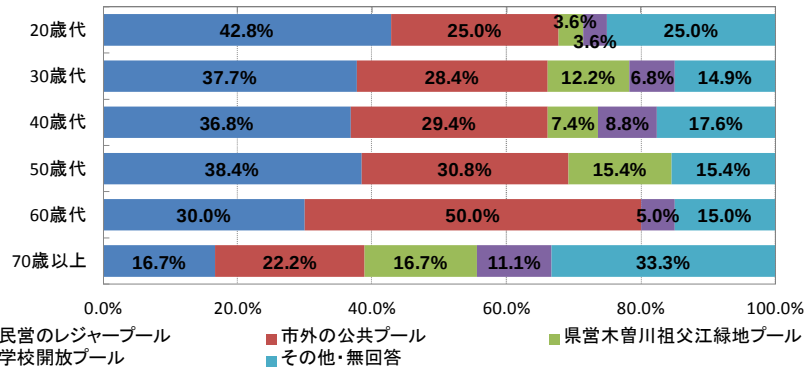
利用しているプールとしては、「民営のレジャープール」が35.6%と最も多く、次いで「市外の公共プール」29.7%となっています。



これを年代別で見ると、20 歳から 50 歳代で民営のレジャープールを利用するかたの比率が高く、地区別では、大里東地区において市外の公共プールの利用が圧倒的に多いことがわかります。

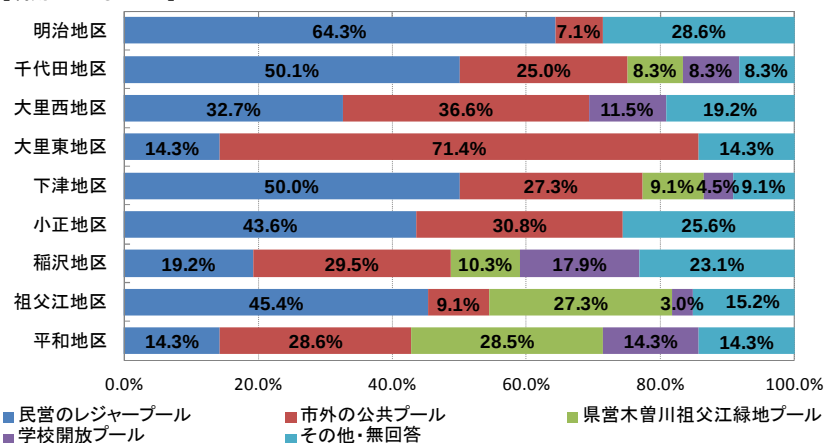
■施設別年代別

【利用しているプール】

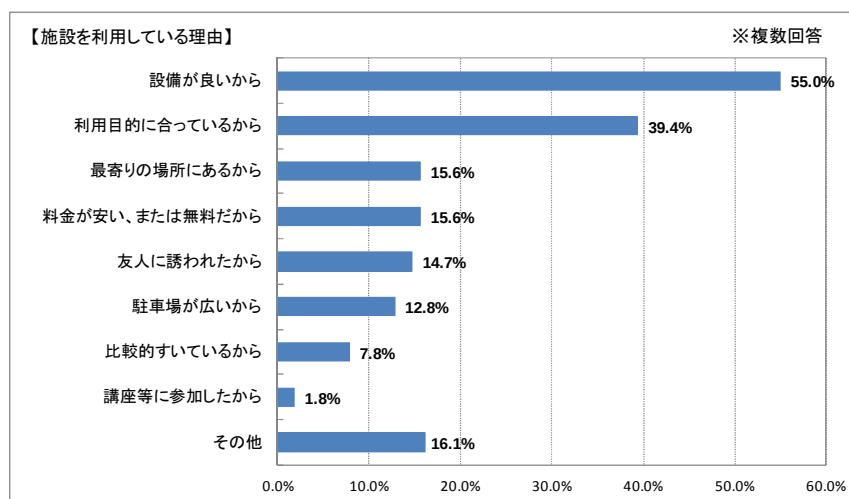


■施設別地区別

【利用しているプール】



また、施設を利用している理由としては、「設備が良いから」が55.0%と最も多く、次いで「利用目的に合っているから」39.4%という順になっています。



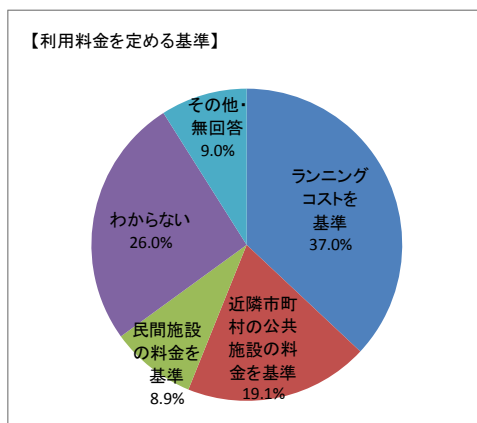
(3) 有料施設の利用料金

現在、市では、有料施設の管理運営経費（ランニングコスト）の1割程度を利用料金でご負担いただき、残りを税金で負担しています。これらの施設の料金を定める基準について、調査しました。

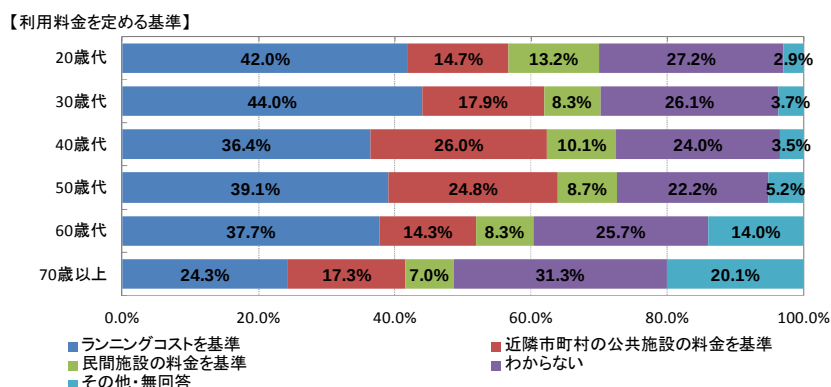
○ 一定の利用者負担には理解を示す意見が多い

「料金を定める基準について、あなたの考えに最も近いものを選んでください」と尋ねた設問に対しては、37.0%のかたが「ランニングコストを基準」と答えています。

これを年代別で見ると、年齢が下がるにつれて「ランニングコストを基準」と答えるかたの比率が高くなる傾向がうかがえます。

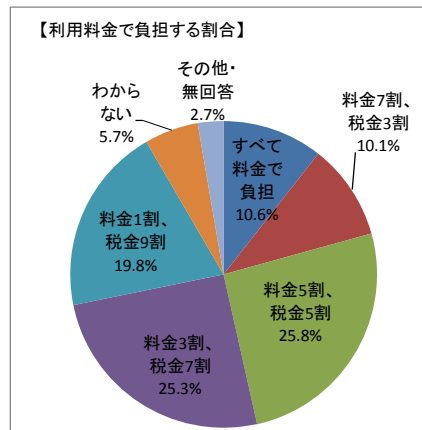


■ 年代別



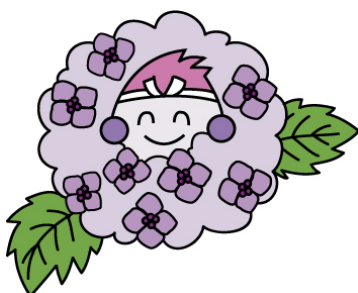
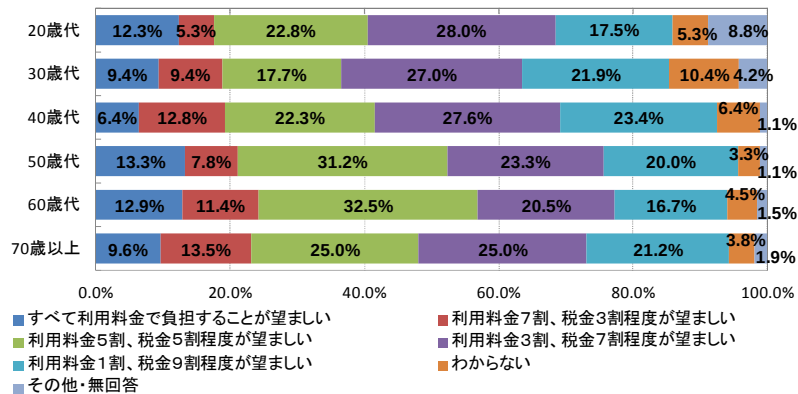
また、「ランニングコストを基準」と答えたかたに対して、「どの程度を利用料金で負担すべきだと思いますか」と質問したところ、合わせて 71.8%のかたが「現行の 1 割を超えて負担すべきである」と答えています。

これを年代別で見ると、いずれの項目も年代間で大きな差異は見られない結果となっています。



■年代別

【利用料金で負担する場合】

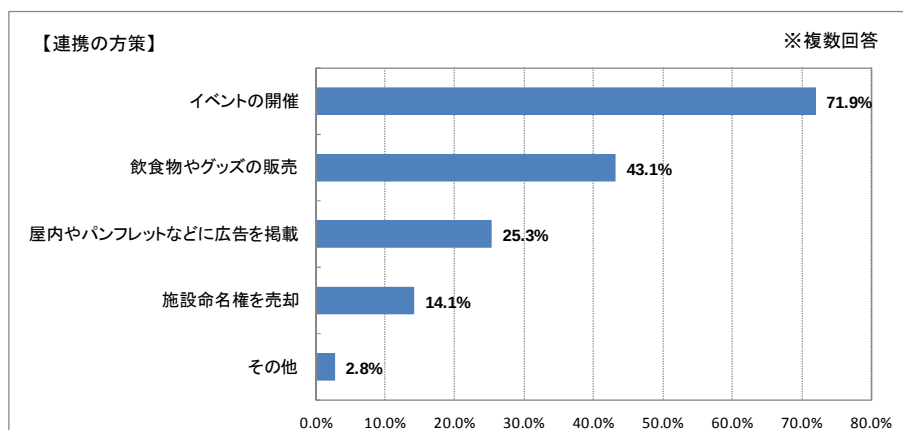


(4) 民間事業者との連携

公共施設の財源確保策としての民間事業者との連携について、調査しました。

○ 多くのかたが民間事業者との連携を支持

「民間事業者との連携をどのような方策で行っていくことが望ましいと思いますか」という設問に対しては、「イベントの開催」と答えたかたが71.9%と最も多く、次いで「飲食物やグッズの販売」43.1%、「屋内やパンフレットなどに広告を掲載」25.3%という順になりました。



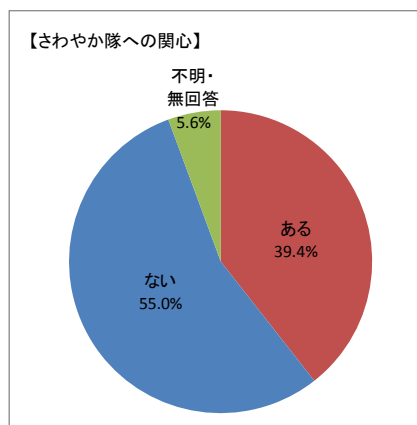
(5) さわやか隊

市は、ごみの不法投棄や路上喫煙の防止など、環境保全のための見回り活動を行うボランティア組織「稲沢市さわやか隊」を平成 21 年に結成し、現在約 1,600 人の隊員が活動しています。さわやか隊への関心度について、調査しました。

○ 4 割のかたが関心を持つ

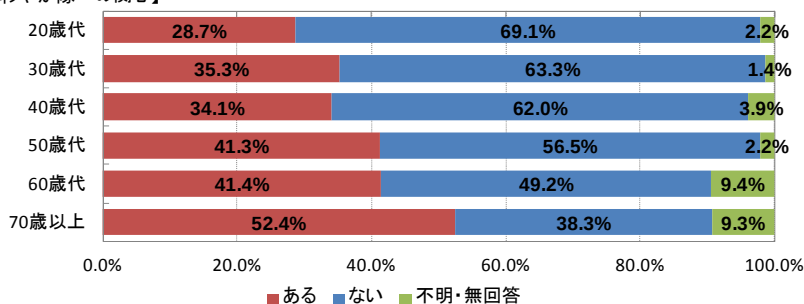
「さわやか隊に関心はありますか」という設問に対しては、39.4%のかたが「ある」と答えています。

これを年代別で見ると、年齢が上がるにつれて関心が高まり、職業別では、学生を除いて概ね 4 割のかたが「関心がある」と答えています。



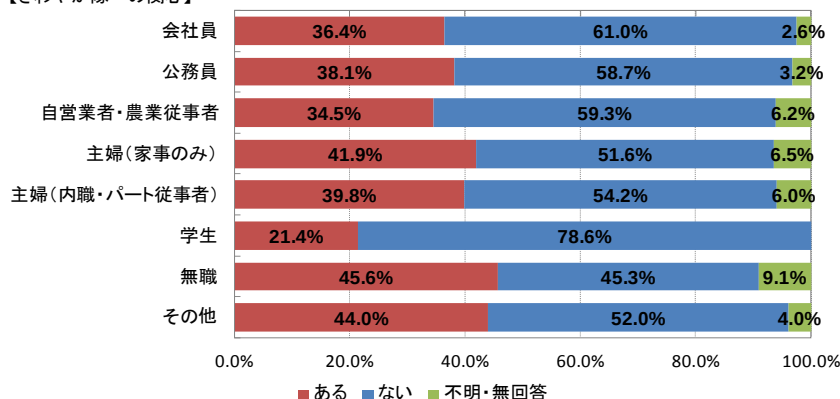
■ 年代別

【さわやか隊への関心】



■ 職業別

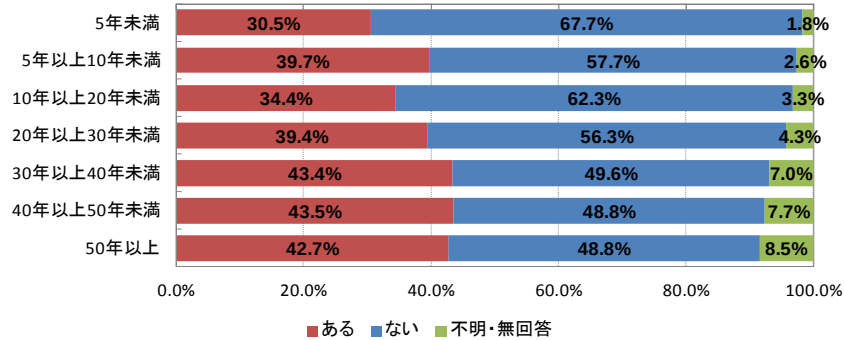
【さわやか隊への関心】



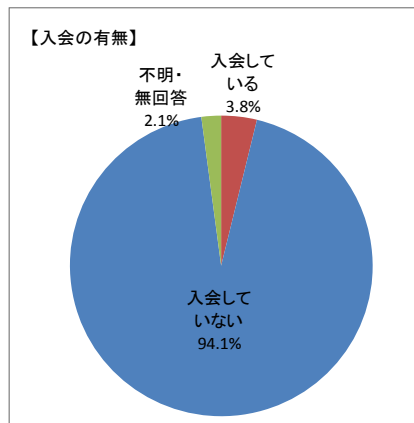
また、居住年数別では、年数に関係なく概ね4割のかたが「関心がある」と答えています。

■ 居住年数別

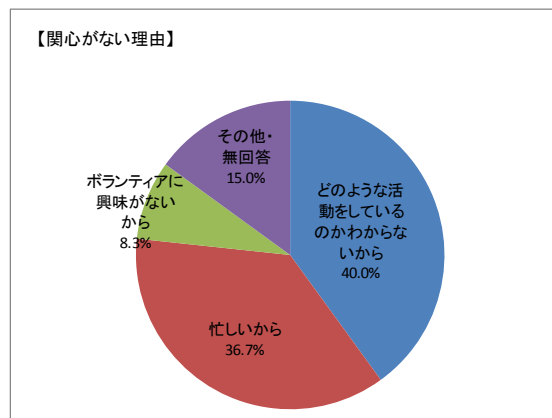
【さわやか隊への関心】



しかしながら、「関心がある」と答えたかたに対して、続く設問で「さわやか隊に入会していますか」と尋ねたところ、「入会している」と答えたかたは3.8%に止まり、関心があっても入会していないかたが大半を占めています。



なお、「関心がない」と答えたかたにその理由を尋ねたところ、「どのような活動をしているのか分からないから」が40.0%と最も多く、次いで「忙しいから」36.7%という順になりました。



○ 積極的なPRが必要

さわやか隊の活動の充実について尋ねた設問に対しては、「活動内容をもっとPRした方がよい」と答えたかたが 82.2%と突出しており、市の積極的なPRを望む意見を多くいただきました。

